

モーリタニア・イスラム共和国
モーリタニア国女性地位向上・子供・家族省

モーリタニア国
オアシス地域の女性支援のための開発調査
ファイナルレポート
主報告書

平成 20 年 3 月
(2008 年)

独立行政法人国際協力機構
(JICA)

太陽コンサルタンツ株式会社
株式会社アースアンドヒューマンコーポレーション

セネ事
JR
08-002

為替レート (2007年12月)

US\$ 1.00	=	UM 250.00
UM 1.00	=	US\$ 0.00400
US\$ 1.00	=	Yen 116.95

序 文

日本国政府は、モーリタニア国政府の要請に基づき、同国のオアシス地域の女性支援のための開発調査を実施することを決定し、独立行政法人国際協力機構がこの調査を実施いたしました。

当機構は、平成 17 年 9 月から平成 20 年 2 月まで、太陽コンサルタンツ株式会社の高木茂氏を団長とし、同株式会社及び株式会社 アースアンドヒューマンコーポレーションから構成される調査団を現地に派遣いたしました。

調査団は、モーリタニア国政府関係者と協議を行なうとともに、計画対象地域における現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

この報告書が、本計画の推進に寄与するとともに、両国の友好・親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終わりに、調査にご協力とご支援を戴いた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成 20 年 3 月

独立行政法人 国際協力機構
理事 橋本 栄治

伝 達 状

独立行政法人 国際協力機構

理事 橋本 栄治 殿

今般、モーリタニア国におけるオアシス地域の女性支援のための開発調査が終了しましたので、ここに最終報告書を提出いたします。

日本政府は2001年4月から2004年9月にかけて Adrar 州と Tagant 州を対象とした「オアシス地域開発計画調査」を実施しました。同調査は、オアシス地域の開発における女性支援の重要性と有効性を明らかにするとともに、女性活動を軸とした優先プロジェクトを提案しました。しかし、住民主体に持続的な開発を州内で展開していくためには、人材育成を通じた普及体制の強化が必要であること、さらにオアシス地域では女性に対する支援が行き届きがない状況にあることが明らかとなりました。

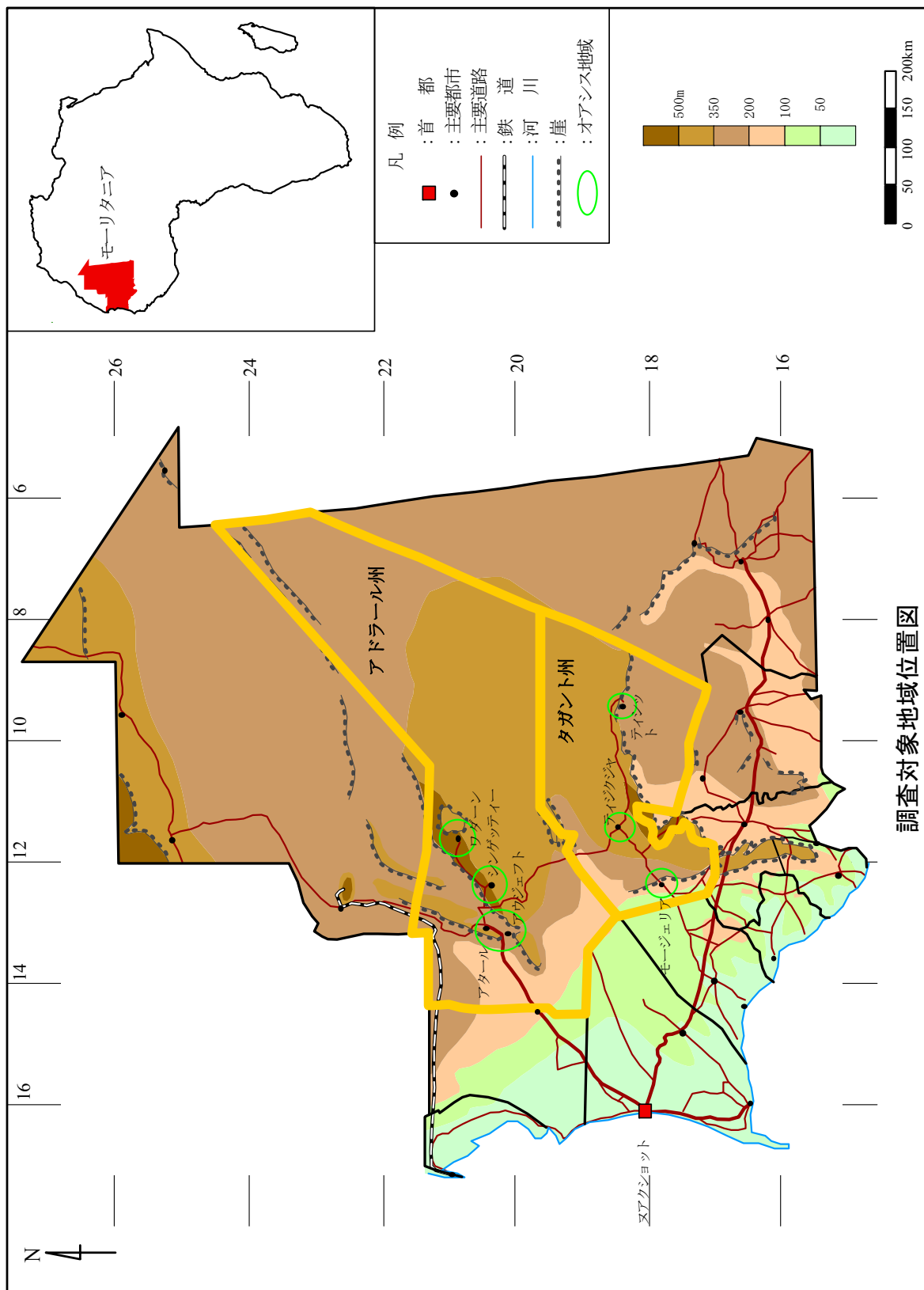
本調査は、オアシス地域の女性支援の手法をとりまとめるとともに、ジェンダー・女性支援の調整を担う女性省と人材の育成を通じた普及体制の強化を目的に実施されました。本調査では、2006年1月から2007年12月に至る24ヶ月に渡って、農業、牧畜、保健、収入創出等のマルチセクターのパイロットプロジェクトを実施しました。パイロット活動を通じて得られた経験と教訓を広く普及させるため、調査団は女性省、保健省、農牧省と協力して、「生活改善と女性支援のためのマニュアル」を作成しました。このマニュアルは、現場での利用を想定し、アラビア語に訳し、女性省全州事務所、普及関係者、関連省庁へ配布しました。

調査団は、本報告書やマニュアルが女性省と関係諸機関に活用され、女性の地位向上、オアシス地域の住民の生活改善と貧困削減に寄与するとともに日本国とモーリタニア国両国間の友好の一層の発展に役立つことを願っております。

なお、本件調査の実施に際し、多大なご支援とご協力を賜った貴機構、在セネガル国日本大使館、貴機構セネガル事務所、さらにモーリタニア国女性省を含めた関係省庁をはじめとして、貴重なご助言を頂いた国内支援委員会の関係各位に対して、心よりお礼を申し上げます。

平成20年3月

太陽コンサルタンツ株式会社
団長 高木 茂



調査対象地域位置図

野菜栽培パイロットプロジェクト(1)



圃場の準備



育苗ポット



移植



ホース灌水



野菜の栽培状況



野菜の栽培状況



収穫物の計量



暑期におけるバスケット栽培

野菜栽培パイロットプロジェクト(2)



暑期における被陰栽培



暑期における被陰栽培



オアシスにおける普及ワークショップ



州農業事務所における普及ワークショップ



普及員・農民向けのマニュアル



普及員によるモニタリング



乾燥野菜



トマトの加工

養鶏活動パイロットプロジェクト



デモンストレーション鶏舎



デモンストレーション鶏舎



給水の研修



住民による鶏舎の建設



住民による鶏舎の建設



住民製作の鶏舎



住民製作の鶏舎



住民製作の鶏舎

収入創出活動パイロットプロジェクト



グループによる染色活動



刺繍 その後染色へ



染色の実践



染色の実践



子供服の試作



ミシン研修



子供服の試作品



女性の日(3/8)への試作品の出品

保健衛生改善パイロットプロジェクト



保健ポスト 看護師の活動



看護師によるAA/ASCのモニタリング



細菌検査の研修



発育モニタリング研修



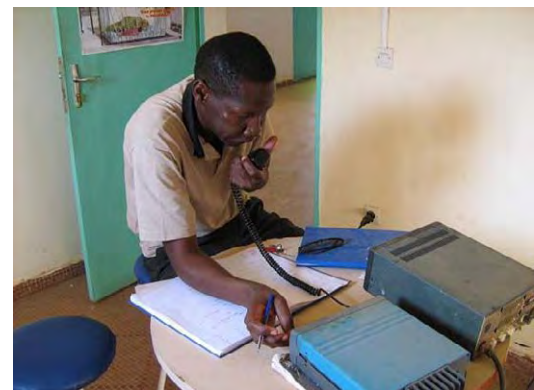
AA/ASCによる活動



AA/ASCを中心とする女性支援活動



無線の整備(保健ポスト)



無線を使った交信

生活改善セミナー



本邦研修者による生活改善の説明



グループ討論



討論結果の発表



栄養改善指導



蛋白源の多様化を目的とした鶏・魚料理講習



卵を使った揚げパン作り



改良かまど講習



グループによる活動計画作り

要 約

第1章 序 章

(1) はじめに

我が国は2001年4月から2004年9月の期間にモーリタニア国(以下モ国)Adrar州及びTagant州を対象として「オアシス地域開発計画調査」(以下フェーズ1調査)を実施した。同調査は、オアシス地域の開発における女性支援の重要性と有効性を明らかにし、女性活動を軸として、1)野菜栽培技術改善、2)保健衛生状況改善、3)小規模・遠隔地の生活環境改善等の優先プロジェクトを提案した。

一方、住民主体に持続的な地域開発を州内で展開していくためには、関係者の人材育成を通じた普及体制の強化が必要である。さらにオアシス地域においては女性に対する支援が行き届き難い状況にあり、女性に焦点を当てた地域開発の計画策定が求められている。

このような状況に鑑み、フェーズ1調査に続く調査として、女性支援を通じてオアシス地域の開発をより充実したものとすべく、モ国政府は我が国に対して「オアシス地域の女性支援のための開発調査」(以下フェーズ2調査)を2004年12月22日に要請した。

(2) 調査の目的

本調査は、モ国のオアシス地域、Adrar州とTagant州を対象とし、以下を目的とする。

- 1) ジェンダーに配慮したオアシス住民の生活改善・貧困緩和のための地域開発のアクションプランを策定する。
- 2) 女性省及び関連機関の人的・組織的能力の向上を促す。

上記のアクションプラン(以下AP)は、モ国のこれまでのオアシス開発の文脈を反映して作成され、住民、政府職員、NGO等によって活用されていかなければならない。そのため、パイロットプロジェクト(以下PP)を現場において試行し、ここから得られる教訓や提言を踏まえてAPの具体化を図る。

(3) 調査の工程

本調査は2005年9月～2008年3月までの31ヶ月間に亘り実施する。

第2章 調査の背景

(1) 国家政策及び上位計画

1) 貧困削減戦略(PRSP)

モ国の主要な政策として貧困削減戦略がある。2001年に策定された同戦略では、貧困者(所得:53,841UM/年・人以下)の4分の3が農村地域に存在することから、2015年までに同地域の貧困者を半減させることを主要政策とした。

貧困削減戦略の2001～2004年(PRSPフェーズ1)の評価に基づいて、2006年10月に貧困削減戦略の2006～2010年(PRSPフェーズ2)のアクションプランが策定されている。同プランでは、優先分野は教育、保健、水、インフラの4つ、優先地域はオアシス地域を含む乾燥農村部と都市スラム街の2つとしている。

2) 女性地位向上のための国家戦略

2001年の貧困削減戦略では、社会・経済開発における女性の役割及び女性が置かれている立

場の脆弱性が認識されたが、各セクター戦略に対してジェンダーの視点を十分に導けなかった。このため、女性省は「女性地位向上のための国家戦略」（2005～2008年）を掲げ、政策面や貧困削減戦略においてジェンダーイシューを取り込んでいくことを示した。

貧困削減戦略 2006-2010（PRSP フェーズ 2）のアクションプランでは、「女性地位向上のための国家戦略」に示されている戦略目標と優先活動を取り込んでいる。特に、i)女性の生産性の強化、ii)女性の意思決定プロセスへの参画、iii)啓発普及(IEC)プログラム策定と実施を通じて態度の変容を促す戦略の開発、に重点を置くこととしている。

3) 農村開発政策

モ国政府は、農村地域開発の戦略として「生産性の向上」と「生産物の多様化」を挙げ、戦略の最終目標を「国内・国際市場での競争力の強化」に置いている。本政策はかんがいによる米作振興等を重点にしている。

オアシス地域の開発の方向性は、限られた地域資源を考慮した持続的開発を目標とするものである。国家経済に占める割合は少ないものの、オアシス文化は住民の定住を支え、自然環境をよみがえらせることで国家の食料安全に貢献するとしている。

(2) オアシス地域の概況

1) 概況

歴史的に見て、オアシスは地方住民が定住していくために、常に社会、文化的に重要な役割を果たしてきた。モ国全体では、オアシス地域に約 15,000 戸の小規模農家が居住する。これらの農家は基本的にナツメヤシ栽培とかんがいを組み合わせた穀物、野菜及び牧畜を柱としている。加えて、オアシス地域は、アクセスの問題により商業や生産物の出荷、販売活動が困難な状況から貧困度が高いということと、水資源の過剰使用による地下水位の低下、飛砂・堆砂の問題などを抱えている。

2) 社会状況の変化

近年のオアシス地域の社会状況として、不安定な降水量のため農耕牧畜を放棄し、都市部へ出稼ぎに行くことにより人口が流出し、これが更なる同地域の貧困化を招いていることが挙げられる。都市へ流出する者の多くを男性が占め、女性世帯主が増加し、家庭を支えるのみならず、地域開発の担い手として女性の果たす役割がより一層重要となってきた。

第 3 章 調査地域の概況

(1) 自然条件

気候は雨期高温期（7～10月）、乾期低温期（11月～3月）と乾期高温期（4月～6月）に分けられる。最近 40 年間での年平均降水量は 75.0 mm（Atar）、118.1mm（Tidjikja）で、降水量の 80～84%が雨期に集中する。多雨年と少雨年が不規則に現れ、年により降水量の変動が著しい。1990 年以降は 2 年に 1 度程度の割合で、100mm 以下の少雨年が認められる。

年平均気温は 28.4℃で、月平均気温の高い月は Atar で 7 月に 34.9℃、Tidjikja で 6 月に 34.8℃を記録している。月平均最高気温と最低気温の差は Atar では 24.4℃、Tidjikja では 22.3℃である。

地形は台地・丘陵地、扇状地、氾濫原、砂丘及び水無川（ワジ）に区分できる。調査地域内で水文学的観点から最も重要な地形単元はワジと考えられる。多くのオアシスは、ワジに沿って分布している。

(2) 社会経済状況

調査対象地域は、2州 (Region)、7県 (Moughataa)、21市 (Commune) に行政上区分されている。さらに、市は複数のオアシスから成っている。調査地域内のオアシス数は Adrar 州 57、Tagant 州 60 で合計 117 である。このうち、オアシス参加型管理組合 (AGPO) は、Adrar 州では 23 組合、Tagant 州では 18 組合が設立されている。

両州の人口は 2000 年時に約 7.8 万人で、全国の約 3% を占めている。1988 年から 2000 年までに人口は年平均 4.2% 減少した。人口が減少した背景としては、乳幼児の死亡率が高いこと、かんばつによる農業生産の減少による都市への人口流出等が挙げられる。

(3) オアシス社会のジェンダーイシュー

モ国世帯総数のうち約 29% が女性世帯主である。一方、農村部においては約 32% が女性世帯主である。女性の世帯主は一般的に収入が低く、これら女性世帯主世帯の貧困化はオアシス地域の開発を考える上で重要な要素である。

オアシス社会においては、ほとんどの家内労働が女性の役割となっている。これらの家内労働に割かれる時間は大きく、そのため女性たちが生産活動に費やせる時間を狭めている。

オアシスでは、就労している女性のうち約 36% が何らかの収入を得ているが、残りの約 64% はいかなる収入も得ていない。男女別による家計出費をみると、女性が料理用の食材、保健関係の出費、子供の教育等、家計出費の重要部分を担っている。一般的に女性の収入が軽減すると子供の健康や教育関係に大きな影響を与える。また女性世帯主世帯では、女性世帯主が生活費を負担する必要があるため、現金収入を得ることが難しい女性にとっては生活が困難である。

近代法は、女性の土地所有を認めているが、現実には女性の土地所有は非常に困難である。対象地域では、女性の土地へのアクセスは限られており、女性が生産活動を十分に行えない原因となっている。これらの状況が女性たちの生産活動の動機付けを低くし、農業普及サービスや情報等へのアクセスを困難にしている。

(4) 農業

モ国の農業は半乾燥、乾燥気候下で行なわれている。主要作物は洪水氾濫原などで栽培されている、ミレット、ソルガム、豆類、セネガル川沿いでの水稻、及びオアシスでのナツメヤシである。耕作面積、生産高はその降水状況で年々大きく変動している。

Adrar、Tagant 両州の耕種農業は①オアシスでのナツメヤシ栽培、②不定期に発生する洪水跡地の氾濫原で行われるミレットやニエベ(豆)などの穀物栽培及び野菜栽培で成り立っている。両州の殆どの地域は、牧畜を中心産業としながら、オアシスにおけるナツメヤシ、ワジでの穀物栽培及び野菜栽培が補完する形態となっている。

オアシス地域で行われている農業は、農作業において男女の役割分担がおおよそ分類されている。ナツメヤシ栽培や氾濫原での穀物栽培は男性中心の活動になっている。また、野菜栽培でも Adrar 州で行われている販売を主目的とするニンジン栽培は男性中心に行われている。一方、自家消費を中心とした野菜栽培は Adrar 州、Tagant 州でも女性個人、もしくは女性グループによる活動が中心になっている。

Adrar、Tagant 両州において、畜産は伝統的に重要な産業となっている。家畜はオアシス住民の資産として位置づけられ、現金が必要になった場合に販売される。

ナツメヤシ及び野菜は、ワジに沿って栽培されている。ナツメヤシは、ワジ沿いに井戸を整備して浅層地下水を利用して栽培されている。野菜の多くは、ナツメヤシ樹下でナツメヤシ

を灌水する水を利用して栽培されている。

Arar 州、Tagant 州の農産物を含む物流及び人の移動は、Atar、Tidjikja の州都周辺、及び幹線沿いのオアシスではタクシーやトラックにて行われている。しかし、遠隔地オアシスでは、個人所有の四輪駆動車による物流、人的移動が行われており、その頻度は定期的なものではなく、需要に応じた動きとなっている。すなわち、オアシス住民による農産物の出荷は、不定期に来る車両の利用や個人による車両借り上げの形態でなされている。また、農産物出荷は殆どの場合、生産者個人で行われており、組合やグループによる共同出荷はほとんど存在していない。

(5) 保健衛生

調査対象地域は厳しい自然環境に置かれ、保健医療サービスへのアクセスが困難な地域である。この地域の主要疾患は、Adrar 州では「呼吸器系疾患」、「下痢」、「結膜炎」が多く、Tagant 州では「呼吸器系疾患」、「マラリア」、「下痢」と続き、いずれも呼吸器系疾患が多い。比較的乾燥している Adrar 州においては砂埃による結膜炎が多く、降水量が比較的多い Tagant 州でマラリアの発症が多い。

Adrar 州では 57 オアシスのうち保健医療の末端機関である看護師が配置された保健ポスト（以下 PS）が設置されているのは 15 オアシスだけであり、PS のあるオアシスも含め 22 オアシスに医療学校における短期研修を受けた助産士補(AA)が配置されている。一方、Tagant 州では、69 オアシス中 PS が設置されているのは 13 オアシスだけであり、AA が配置されているオアシスは PS があるオアシスも含めてわずか 17 オアシスにとどまっている。

女性 1 人当たりの出産数は Adrar 州で 6.0 人、Tagant 州で 5.7 人、そのうち Adrar 州では 1.4 人、Tagant 州では 1.2 人が死亡している。半数以上の女性が出産支援を受けずに出産を経験しており、出産場所としては自宅（テント）が最も多く、続いて野外である。出産支援を受けた女性が半数近くいるが、保健ポストや出産施設といった医療施設における出産は少ない。その理由は医療機関には属さない伝統的助産士による支援の下での出産が多く行われていることによる。

(6) 収入創出活動

オアシス女性の主な収入創出活動は、野菜栽培、手工芸、日用品の小売等であるが女性が最も関心を持つ活動は野菜栽培である。しかしながら、女性が十分な土地を所有することは困難であり、また技術習得・向上のための研修機会にも恵まれにくいことから、容易に現金収入に繋がらないのが現状である。

大多数の女性は、女性組合などの組織に属しながら収入創出活動を実施している。多くの女性組合では、運営計画、運営資金の調達、会計、組織間連携などの面で未熟な点が多く、組織を円滑に運営する上で課題を抱えている。

(7) オアシス開発(関連プロジェクト)

1) オアシス持続的開発計画(PDDO)

PDDO は、IFAD、クエート基金、世界環境基金及びモ国政府の資金で実施されている。2003 年に終了したオアシスプロジェクトフェーズ 2 を引き継ぐプロジェクトであり、2005 年 2 月から 8 ヶ年の予定で Adrar、Tagant、Assaba、Hodh El Gharbi、Hodh Ech Chargui の 5 州を対象としている。PDDO は、特に女性と若者を対象とし、目的は住民自身が貧困削減と環境保全の一端を担えるよう、オアシス開発の基盤を整えることである。PDDO はオアシスコミュニティの組織化、オアシスの持続的生産能力の開発、融資、基礎インフラ整備、調整・フォロー・評価のコンポーネントからなっている。

2) 農村コミュニティ開発プロジェクト(PDRC)

PDRCは、世銀の融資にて、Adrar, Tagant, Assaba, Hodh El Gharbi, Hodh Ech Chargui, Gorgol, Brakna, Trarza, Guidimaka, Inchiriの10州を対象とし、2004年10月から2010年10月までの予定で実施中である。世銀の融資では、オアシス地域に関連するものとして、1994年に始まった農業サービスプロジェクト(PSA)と1997年に始まった降雨地域自然資源管理プロジェクト(PGRNP)がある。PDRCは、後者(PGRNP)の続きとなるもので、その地理的範囲と活動範囲を拡大したものである。PGRNPは66の自治体に295のコミュニティ開発委員会(ADC)を設置した。PDRCは141の自治体で700のADCの創設を目標とする。PGRNPが村落のみに集中したのに対しPDRCはそれに加えて10のパイロット村落自治体への直接支援、農業サービスへの支援と農村マイクロエンタープライズ支援を含んでいる。

PDRCは能力強化、投資ファンド(FIC)、プロジェクト運営・モニタリング・評価の3コンポーネントから構成される。

3) 保健栄養支援プロジェクト(PASN)

PASNは世銀(IDA: International Development Association)が約1千万US\$融資するプロジェクトである。対象地域は6州(Hodh El Gharbi, Assaba, Gorgol, Brakna, Tagant)及び2都市(Nouakchott, Nouadibou)であり、2007年3月から2010年3月までの3ヶ年の予定で実施されている。PASNは1995年から2005年まで実施されたNutricomプロジェクトを引き継ぐものである。

PASNの上位目標は対象地域の保健衛生、栄養状況及び保健システムの改善であり、特に女性、子供を対象としている。PASNは上位計画である、PNSAS(Politique Nationale de Santé et d'Action Sociale 2005~2010)、PNDN(Politique Nationale de Développement de la Nutrition 2005~2010)に沿って実施されている。

第4章 開発の課題

(1) フェーズ1調査及び類似プロジェクトの経験

本調査の目的及びフェーズ1調査で残された課題を考慮し、フェーズ2調査に与えられた課題を以下に示す。

- 1) フェーズ1調査では、モデルオアシスで農業技術開発等を重点的に実施して栽培・飼育方法の改善等の成果を得たものの、他地区や他の組織へ普及させる体制の検討までには至らなかった。
- 2) オアシス地域の開発を進める上で女性活動を支援することが重要であると提言しているが、受け皿となる女性組織の育成、女性の開発への参加における配慮等の視点を盛り込むに至らなかった。
- 3) 本調査で新しく追加された課題であるが、人材育成を通じたジェンダー・女性支援を担う女性省の能力強化が必要である。

また、IFADによるモ国での開発支援の教訓として、地方の貧困軽減には、実際の裨益者に弱い立場の集団の参加が重要であることを挙げている。

(2) ジェンダーと生活改善

オアシス地域における近年のジェンダー関係の変化は、これまで生産活動を営んでこなかった女性にも、生産活動を求めるようになった。食料生産についてみると、現状では水に大きな制約があることから、農業牧畜の生産活動は限定的であり、女性の生産への貢献は少ない。

しかし、女性にも容易に実施可能な栽培技術や養鶏技術を適用することにより、日々の生活に必要な食料を女性でも確保することが可能となる。

都市から離れているオアシスでは、病院や医療所へ出にくいことから、最低限の基礎医療サービスはオアシス内で享受できるような体制になっていく必要がある。

各種の技術研修や女性組合支援などにより、女性にも生産や生活に係わる活動の機会が多くあることを認識してもらい、意識改革を進めつつ、オアシス地域で生活する女性が家庭内やオアシス社会で自分たちの能力を生活の改善の中で最大限に活かしていくことが必要である。

(3) 女性のニーズ充足の必要性

これまで女性組織が開発プロジェクトの資金的な支援を受けたことがあったとしても、女性組合自体の組織化や運営能力強化に対しての支援を受けたことはなく、このような支援を女性たちは切望している。このような背景から、男女のニーズを把握した上で、これまで裨益することが少なかった女性ニーズの充足を十分に推し進めることがオアシス総合開発を推進していくための出発点となる。

第5章 アクションプラン

(1) 基本概念

アクションプラン(AP)は、オアシス地域の文化・社会経済状況や本調査のパイロットプロジェクト(PP)の経験から次の基本概念を基に計画立案した。

1) 女性の潜在能力の活性化からオアシスコミュニティ開発

APでは、従来、開発の裨益を受けることが少なかった女性や女性グループを主要な裨益者、参加者とし、直接働きかけることから開始する。女性がAPに係わる活動を通じて「力をつけ」、「潜在能力の活性化」を通じてオアシスコミュニティ開発へ寄与することを目指す。

2) 先行プロジェクトとの相乗効果の創出

PDDOやPDRCがオアシス参加型組合(AGPO)や村落開発委員会(ADC)といったコミュニティ委員会を中心にプロジェクトを実施してきたのに対し、APではAGPOやADCの構成員でありかつ裨益しにくい女性や女性グループに直接働きかけることから開始し、女性のオアシスコミュニティ開発への参画を経るプロセスを採用する。

(2) 開発のアプローチ

1) 地域資源の有効利用

モ国の多くの農村開発では、支援する人材を外部に依存してきた。オアシス地域のような行政による女性支援が行き届かないところでは、地域住民の中から住民間普及を担える人材を育成し、継続的な活動が可能な女性フォーカルポイントを育成することが重要である。

また、オアシス住民の生活は限定された地域資源の利用の上に成り立っている。住民は作物生産や家畜飼育を営みながら家畜飼養源の供給も併せて行っている。家畜飼養は栽培活動に伴って産出する農副産物・残渣と放牧地として利用される地域の自然資源の利用が不可分である。このような資源の循環利用を維持していくことが持続的な活動に不可欠である。

2) マルチセクターアプローチ

生活環境が厳しいオアシス住民の生活改善と貧困削減を促進するためには、日々の生活における多様な課題に対処していく必要があり、マルチセクター的なアプローチが住民のニーズにより合致する。また、優先度の高いプログラム・プロジェクトでも個々に実施することは非効率

であるため、関連プロジェクトをパッケージ化して実施するのが望ましい。

3) もったいない思想の普及(低コストアプローチ)

外部からの支援や変化を待つのではなく、生活に身近なことから、低コストでも“工夫”し、より暮らしやすい生活環境を作ることが持続的な開発には不可欠である。低コスト・小規模な活動や今ある物の見直しから開始し、徐々に発展させていくことが望ましい。

(3) アクションプラン

AP は、Adrar 州と Tagant 州を対象とする。これまで開発の裨益を受けにくかった女性・女性グループを主要な対象とする。

1) 目標

AP の目標は、対象地域における女性や女性グループの支援活動を軸にして、住民の生活改善及び貧困の軽減を図ることである。

短期的には以下の目標を目指す。

- i) 家庭内自給の向上、収入の向上、栄養改善
- ii) 地域資源の持続的利用
- iii) 基礎医療へのアクセス向上、オアシス住民の健康状態の改善
- iv) 女性の経済・社会活動への参画促進、男性による女性活動の理解促進

2) 期待される成果

- i) 女性グループを中心とした家庭内自給の向上と生産物の多様化
- ii) 保健知識向上と行動変容、食生活の改善
- iii) 基礎保健サービスの向上
- iv) 女性組織の能力向上
- v) 男性による女性の役割と活動の見直し

3) 活動の軸と活動内容

AP における活動は 4 つの活動の軸に整理され、それらに沿った活動内容は以下のとおり。

i) 地域女性リーダー育成と女性組織の強化

目的：オアシスにおいて女性活動を推進する地域女性リーダーの育成と女性組織の強化

活動内容：

- 州レベルの生活改善セミナー
- AA の再研修（地域保健と女性活動の推進に関する啓発研修）
- 地域女性リーダーのための研修（女性組織リーダー、AA/ASC の育成）
- 女性組織の強化

ii) 収入創出（生産技術）・生活技術に係る研修・支援

目的：女性の収入創出活動（生産技術支援）の活性化と多様化、生活を改善するための技術支援

活動内容：

- 食料自給向上を目指した野菜栽培・養鶏活動の普及
- 収入創出活動（染色、洋裁、手工芸、小規模商売等）
- 生活技術の改善

iii) 啓発普及活動 (IEC)

目的：女性が自らの権利・義務を把握しながら、生活改善全般に関わる活動やコミュニティ開発への参画促進

活動内容：

- 女性省職員によるオアシスにおける啓発普及
- 地域女性リーダーによる啓発普及とフォローアップ

iv) 女性省の能力強化と生活改善セミナー

目的：AP の実施機関となる女性省の機能強化ならびに事業を実施する女性省、保健省、農牧省の州職員の能力強化

活動内容：

- 生活改善セミナーを通じた生活改善の概念やアプローチの普及
- PP のモデルオアシスの経験を生かした女性支援の実施
- 現場レベルでの生活改善セミナーを実施する人材の育成能力向上

4) 計画期間

AP の計画期間は、PDDO のプログラム最終年に併せ 2008 年から 2012 年の 5 ヶ年とする。最初の 1 ヶ年間は、準備フェーズとして、住民交流、生活改善セミナーを中心とした活動を通じて女性リーダーの育成及び女性省職員の能力強化等を行う。2 ヶ年目から普及フェーズとして、県単位あるいは隣接する複数のオアシスを単位に年毎に順次新たな地区においてオアシスレベルでの活動を実施する。

5) 実施体制

i) 中央レベル

中央では、ステアリングコミッティを設置し、女性省が中心となり、保健省、農牧省と協議し、活動全体の調整を図る。女性省協力局内に AP 実施のためのプロジェクトマネジメントユニット (PMU) を設置する。

ii) 州・オアシスレベル

- 州行政間の体制

州レベルにおいては、州テクニカルコミッティを設置し、女性省州事務所が中心となり、保健省州事務所、農牧省州事務所間の技術的な対応の調整をする。このコミッティにおいては、定期的に活動計画の策定・見直し、現場からのフィードバックを行い、中央の PMU に対して定期的に報告する。

- 州行政と住民間のサポート体制

オアシスでは、AGPO がオアシス住民と行政、外部との窓口となる。また、保健行政の末端に位置する助産士補(AA)に対し、地域保健普及(ASC)、リーダー研修等の能力強化を行うことにより AA/ASC を育成し、AA/ASC が AP の各活動のオアシスでのフォーカルポイントとなる。加えて保健ポスト (PS) を通じて AA/ASC がオアシスと州行政とのつなぎ役となる。

6) 実施計画

AP は以下のカテゴリーに分類されるオアシスで実施する。

- カテゴリー1： AGPO が設立され、かつ AA が配置されている 26 オアシス
カテゴリー2： AGPO がなく、AA が配置されている 13 オアシス

実施は以下の考えに基づいて行う。

- i) PP を実施したモデルオアシスを住民交流の拠点とした普及展開を進める。
- ii) 初期の活動（1年目）は、準備フェーズとして、女性省等の能力強化と共に PP のモデルオアシスにおいて、他地域間との州生活改善セミナーを通じた住民交流等を行う。
- iii) 中期からの活動（2年～5年）は、初期活動を通じて、女性組織の育成が順調なオアシスを新たな拠点オアシスとして、個別活動の普及展開を図る。
- iv) 2年目以降は各州年間に4～5オアシスずつ新たなオアシスで活動を展開する。

7) アクションプランの活用方法

本調査で提案する AP は、女性省が中心となり展開することを想定したものであるが、事業化に際しては以下のパターンが考えられる。

- i) 女性省が関係省庁と連携しながら AP を実施する。
- ii) 保健省、農牧省が AP の一部を単独で実施する。
- iii) PDDO、PDRC、PASN のプロジェクトが AP の一部を実施する。
- iv) 住民がマイクロファイナンスを利用して AP の一部を実施する。

8) 事業費

AP は、研修や技術支援を中心とした4つの活動の軸から構成されている。これらの活動を運営管理するために必要な投入は、1)PMU維持費；①専門家、②コンピュータ等資機材、③事務所運営費、④車両維持管理、2)プログラムに係わる研修費、3)普及用マニュアル・ガイドの印刷費、4)プロジェクトのモニタリング評価費用である。

上記の投入を行うため必要な費用を見積もると、PMU を担当する専門家の費用を除いた5ヶ年の総額は110百万UM（約44万US\$）である。年間当たりでは、16百万UM（約6万3千US\$）～28百万UM（約11万1千US\$）である。このうち、中央における生活改善セミナー等を通じた女性省職員の能力強化が活動初期2ヶ年間で6百万UM（2万4千US\$）、研修全体では年間当たり、8百万UM（3万2千US\$）～20百万UM（8万US\$）である。

第6章 パイロットプロジェクトの実施

(1) パイロットプロジェクト(PP)の目的

本調査では、①AP の実施の可能性の確認、②実施上の問題点の把握ならびに実施過程をモニタリングすることによる評価分析を通して、③AP へフィードバックし、④AP の実行性をより確実なものとするために PP を実施する。

(2) PP の実施項目

フェーズ1調査の提言、住民のニーズ及び女性支援としての効果の観点を踏まえて PP の実施項目を以下のように定めた。

1) 農業技術改善

農業分野では、フェーズ1調査で女性支援の効果が確認されている①野菜栽培、②養鶏活動を取り上げる。野菜栽培は、生産性の向上、水利用効率の検討、作期の拡大等による野菜摂取量の増加による栄養改善を目的とする。養鶏活動は、鶏卵、鶏肉摂取増による蛋白源多様化を通じた栄養改善、収入向上を目的とする。

2) 保健衛生改善

基礎保健医療サービスの最低限の確保と住民の主体的な参加を促進することを目的とする。
このために、助産士補/村落保健普及員(AA/ASC)を育成し、AA/ASCによる住民啓発を行う。

3) 収入創出・女性組織支援

女性個人の生産技術・生活技術を高めると共に、女性組織の運営能力を強化し、女性活動の効率化と持続性を高めることを目的とする。

4) 女性支援のための普及行政の強化

女性支援・ジェンダー配慮の調整を担う①女性省職員的能力強化を図ると共に、②関連省庁間の連携のあり方の検討、オアシスでの女性支援活動を促進させる普及行政の強化を図る。

(3) フェーズ1 調査からフェーズ2 調査への発展

前述の PP 実施項目のうち、1)農業技術改善及び 2)保健衛生改善は、フェーズ1 調査の実証調査を引き継ぐものである。フェーズ2 調査では、調査の命題である女性を支援する目的のために、次の2 項目、3)収入創出・女性組織支援、4)女性支援のための普及行政の強化、を発展的に追加する。

(4) PP の実施方針

PP の実施方針は以下とする。

- 1) 女性・女性組織を主な対象とする。
- 2) 住民による持続的な開発を目指し、地域内の資源利用や導入資機材は安価なものとする。
- 3) 住民が繰り返すことができるよう、導入技術は簡易でわかりやすいものとする。
- 4) オアシス参加型組合(AGPO)を有効に活用する。
- 5) PP を他地域で展開する際は、行政による支援が不可欠であるため、行政が普及活動を担う。

(5) 対象オアシスの選定

PP 実施対象オアシスは、現況で①AGPO が機能していること、②AGPO の中に女性組織が存在し活動的であること、③農業生産のポテンシャルを有していること、④地域センターとしての可能性等を評価して選定した。選定されたオアシスと実施する PP 項目は以下である。

プログラム	オアシス PP 項目	Adrar		Tagant	
		M'Haireth	Tirabane	N'Titam	N'Batt
農業技術改善	野菜栽培		○	○	○
	養鶏活動	◎M'Haireth	○	○Lemguetah ◎N'Gereo	
保健衛生改善	助産士補育成/地域保健活動・栄養改善	○M'Haireth ○Fares	○	○6 小オアシス	○2 小オアシス
収入創出活動	技術研修・女性組織強化	○M'Haireth ◎Fares	○	□	□
女性支援のための普及行政の強化			○		○

注 1) ○=初年度から実施中、△=調査団の関与少なくとも住民主体、□=2007 年から女性庁州事務所主導で実施、◎; 住民の強い要望により 2007 年から実施

注 2) M'Haireth は Fares を含む 2 オアシス。N'Titam は小オアシス 6 つからなる。

(6) PP の実施スケジュール

PP は、2006 年 1 月から 2007 年 12 月までとし、以下のステージに分けて実施する。

- 第1ステージ「実証準備期及び一部実施」(2006年1月～3月)
- 第2ステージ「野菜栽培予備期、その他事業開始及びモニタリング」(2006年5月～9月)
- 第3ステージ「全ての実証及びモニタリングの実施」(2006年10月～2007年12月)

(7) PPの実施状況と成果

1) 経緯

i) 第1ステージ(2006年1月～3月)

PP活動開始に先立ち、各オアシスにおいて住民に対して調査の方向性及びアプローチの説明を行うための住民総会を開催した。

農業活動(野菜、養鶏)については、住民総会后に住民自身による対象グループの絞り込みを経て、野菜栽培を Tirabane、N'Batt、N'Titam の3オアシス、養鶏活動を Tirabane、N'Titam の2オアシスでそれぞれ開始することとした。その他の活動については、活動内容・計画について住民との協議を中心に実施した。

養鶏活動を行った Tirabane では、3月末までの2ヶ月間で10農家が自主的に養鶏活動を開始するに至った。

ii) 第2ステージ(2006年5月～9月)

暑期に入り、野菜栽培では被陰を用いた作期の延長の検証を行った。ナスについては7月末、トマトについては6月末までの延長が可能であった。養鶏については、暑さのため産卵が停滞した。N'Titam の Lemgutah 集落では、雨季を迎えるため居住地を移動した際に、多くの鶏が移動のストレス及び移動後の野生動物による被害で減少した。

保健衛生の活動では、助産士補候補(AA)11名に対して、「オアシスにおける健康問題と課題に対する参加型研修」と「女性支援・ジェンダーをテーマとした啓発研修」を行った。この研修で、AA自身が健康問題を認識し、自らの役割を確認した後、国立医療学校においての助産士補の研修を開始した。

収入創出・女性組織支援の活動では、6月中旬に女性省州事務所職員ならびに農業普及員を対象に、「組織化と運営」、「活動計画策定支援」、「ジェンダー配慮と啓発」等の研修を実施した。その後、6月下旬から7月中旬にかけて、手縫いの裁縫研修、野菜PP活動で堆肥製造を学んだ女性グループメンバーから他のメンバーへ伝える方法で堆肥研修を行った。

女性省の能力強化・ジェンダー支援活動では、州行政関係者へジェンダー研修を行った。また、PP活動の中でオアシス住民を直接支援する、女性省州職員、農業普及員に対して、組織支援や技術支援を行う際にジェンダー配慮を行うべく、ジェンダー研修を実施した。加えて、AA/ASCに対して、住民への啓発普及手法の研修を行った。

iii) 第3ステージ前半(2006年10月～2007年3月)

2006年10月より本格的な野菜栽培のPPを3オアシスで3女性グループ対象に開始した。12月には、オアシス内の他のグループへも技術移転を図るために、映写会及び栽培マニュアルを用いた技術普及ワークショップを開催した。その後、女性グループ間で野菜栽培に係わる情報交換が行われるようになった。

2007年1月には Tirabane の養鶏取り組み農家は18戸に増えた。また Tirabane の養鶏活動を見聞して、M'Haireth の女性グループが調査団へ技術支援を要請してきた。同月に、Adrar では M'Haireth、Tagant では N'Drew 集落においてデモンストレーションを1度ずつ追加実施した。

AA研修を終えたオアシス女性11名のうち9名が国家試験に合格した。AA研修後、引き続き村落保健普及のためのASC研修、啓発研修を行い、同一のオアシス女性が助産、地域

保健活動、住民啓発等の多様な活動が実施できるよう育成された。2007年1月からAA/ASCが出身オアシスで活動を開始した。

Adrar州のM'Haireth、Tirabaneでは女性たちからの強い要望で染色研修を2006年11月から実施した。本ステージでは、第2ステージで行った裁縫から少し高度な中級程度の研修とミシン縫いの基礎研修を行った。女性組織運営研修の一環として、育成したAA/ASCによる女性活動に係わる簡易問題分析ワークショップを同時に開催した。

女性省の州事務所機能の強化として、中央に州事務所支援担当者を配置した。支援担当者は州事務所長が作成する月報を基に、月例会議を開催し、州事務所やPPの活動状況の進捗を確認すると共に助言指導を行うこととした。ジェンダー関連支援では、第2ステージに引き続き、オアシスの男女双方にジェンダー研修を実施、同様にAA/ASCに対し、啓発普及活動を行う際のジェンダー配慮の研修を実施した。

PPが始まり1年が経過した2007年1月下旬～2月上旬にかけて、成果の発現状況及び住民への影響を把握し、第3ステージ後半の活動内容を見直すために中間評価を行った。

iv) 第3ステージ後半(2007年5月～2007年12月)

中間評価では、住民レベルのPP活動の成果が出始め、女性を中心とした小さな生活改善が動き出したことを確認した。一方、PP活動は多岐にわたり、複数の省庁に係わる。これらのPPの実施についてはAPの実施に係わる関係省庁の役割、特に女性省主導による実施体制の実行性が課題として残された。

そのため、第3ステージ後半の調査活動では、女性省主導によるPPの実施、女性省内にAP策定委員会を設置し、AP内容の検討、生活改善セミナー型の普及方法の有効性を検討することとした。

2) 中間評価によるPP活動の見直し

中間評価結果では、農業、保健、収入創出等のセクター毎の活動成果が出つつあるものの、「女性支援のためのAP」という包括的な考え方の整理が必要なこと、女性省及び関係省庁の役割と実施機関を明確化することが必要であると判明した。

これを受け、2007年5月以降から女性省主導で、「女性支援のためのAP」を実施する体制の検討と女性支援の視点から、PP活動を次のように整理して実施することとした。

- i) 野菜、養鶏等の生産技術の改善と併せて、衣食住の管理を担う女性の生活技術（染色、料理、かまど、栄養啓発等）の改善を一体的に実施する。
- ii) オアシスにおいて、保健活動に併せて女性活動の支援が期待できるAA/ASCをオアシスにおける女性リーダーとして育成支援する。
- iii) 女性省が農牧省や保健省から技術支援を受け、生活改善セミナー（生産技術、生活技術、ジェンダー啓発）やオアシスでの活動支援を主導して実施する。

3) PPの成果

i) 野菜の生産性向上

野菜栽培では、フェーズ1で効果が認められた畝立て、被陰に加えて、移植、堆肥を適用した。その結果、現地で調達可能な資材を用いて、女性グループによる栽培でも、モーリタニア農業試験・農業開発センター(CNRADA)が示す目標収量やフェーズ1調査で得られた収量と遜色ない収量水準を達成することが可能であった。

現地で調達可能な資材を用いて適切な被陰を行うことにより、トマト、ナスでは夏期による栽培が可能で、6～7月まで収穫期を延ばすことができた。

住民交流、デモンストレーション栽培、簡易栽培マニュアル及び映写会を併せた普及活動を

実施することにより、周辺小オアシスやオアシス内普及を可能とすることが確認された。

ii) 水利用率の向上

従来の総灌水量の 30~50%を削減しても、PP で得られた収量が達成できる可能性が確認できた。低温期を除き、水分ストレスを与えないよう毎日灌水するのが望ましい。

Tagant 州のように人力による揚水を行っているところでは、大きな投資をすることなく圃場レベルでの節水栽培が取り組まれる可能性がある。一方、Adrar 州のようにポンプかんがい幅広く普及しているところでは、点滴かんがいを含む搬送ロスの低減による節水が現実的である。

iii) 養鶏の生産性向上

養鶏では、現地調達可能な資機材ならびに舎飼を基本とし、オアシスで行われている在来の飼育方法を改善した改良鶏舎、雛専用鶏舎、石の産卵室を導入した。その結果、Adrar 州の Tirabane、M'Haireth では養鶏を取り組む農家が増加し、鶏卵・鶏を販売するまでに至った。特に、Tirabane では総世帯の約 4 割に相当する 40 戸が養鶏活動を住民自身のイニシアティブで開始するに至った。

iv) 食生活の改善

野菜栽培及び養鶏の PP を通じて、野菜、鶏卵、鶏肉の自家消費量が増えた。鶏卵は子どもを中心に、鶏肉は家族や来客用に食されている。また、料理研修後、卵を用いたお菓子、魚が食されるようになった。

v) 基礎保健医療サービスの確保と女性リーダーの育成

オアシス住民から助産士補/村落保健普及員(AA/ASC)を 11 名育成した。AA/ASC による出産支援や地域保健活動等により、オアシスにおいて基礎保健医療サービスを受けることが可能となった。

AA/ASC に啓発普及の研修やリーダー研修を追加することにより、保健分野ばかりでなく、女性活動の支援までを担う住民間普及を可能とする地域リーダーが育成された。

vi) 収入創出・女性活動の活性化

収入創出活動では、染色、裁縫等の研修を実施した。生活技術では、料理、改良かまど、乾燥野菜・加工等の研修、組織強化では、会計簿の付け方、活動計画作りなどを研修した。その結果、染色、裁縫ではグループによる資材の共同購入、共同販売へ繋がり、自家向けや家計費の節減に貢献するまでに至った。

特に染色活動を契機に Tirabane では 13 グループが 2 つのグループに、M'Haireth では 6 グループが 1 つに、N'Titam では 7 グループが 1 つに再編され、それぞれ活動を展開するに至った。

vii) 女性支援のための普及体制の強化

女性省が中心となり女性支援の活動を展開していく際に、技術官庁との連携のあり方や必要な調整内容、現状の女性省職員の能力や課題がある程度明確化した。

(8) パイロットプロジェクトの最終評価と実施から得た教訓

1) 生活改善・貧困改善に貢献している状況

a. 生産活動の活性化

住民評価に基づく PP 活動を通じて活発化した活動は、1)野菜栽培、2) 裁縫、3) 染色、4) 小規模商売の順であった。野菜栽培は、従来から女性たちが行ってきた活動であるが今回の

技術支援により、より活性化された。また裁縫や染色については、オアシス女性にとっては新しい技術であり、従来の限定された生産活動を多様化させることに貢献した。

野菜栽培 PP を通じ、これまで栽培経験のなかった野菜種の栽培が開始され、対象オアシスにおける野菜の栽培品種は PP 開始前と比べ 2～4 種類から 9～10 種類へ増加している。

b. 家庭内消費量の増加と多様化

PP 活動を通じて、住民の食習慣における二つの変化が見られている。一つは野菜、鶏卵、鶏肉等の家庭内消費の増加であり、もう一つは従来食しなかった鶏卵、鶏肉、魚、揚げパンなどの食材の多様化である。

PP を通じて、今後の野菜生産における家庭内食料安全と栄養改善では、以下の 2 戦略を取ることが提案される。

戦略 1：野菜の作期を伸ばす。

被陰の利用などにより暑期栽培を推進する。

戦略 2：野菜栽培経験者を増やす。

野菜栽培を行っていない人は消費野菜も少なく、限られた期間しか野菜を食べていない。野菜栽培を行うことで、年間での野菜消費できる期間が伸びる。

c. 収入向上と支出削減ならびに生活の改善

PP を通じて多くの女性が「生活が改善された」と実感している。改善された生活状況は多岐にわたり、女性たちが実感している内容は、1) 栄養改善、2) 健康増進、3) 収入の増加、4) 食料の確保の順で多かった。

「栄養改善」は、1) 野菜栽培・養鶏活動を通して自家消費の食料が確保されるようになったこと、2) 料理研修や栄養教育を通して、これまで摂取しなかった野菜や卵・鶏肉・魚などの蛋白源摂取が開始されたこと、3) AA/ASC による地域保健活動や啓発普及等により栄養に関する意識が変化したこと、等によるものと思われる。また、「健康増進」「食料の確保」についても、上述と同様の背景と考えられる。

「収入の増加」は、野菜栽培や養鶏活動による販売に加え、ベール（モーリタニアの女性の日常服）等の染色や縫製した衣類等を販売できるようになったことによる。

d. 保健衛生に係わる啓発普及と日常生活の改善

本調査では、住民のエンパワーメントの取り組みの一つとして啓発活動を実施した。活動は AA/ASC により紙芝居やディスカッションを通じて行われた。延べ 1,675 名（アドラール州/626 名、タガント州/1,049 名）が「女性の権利・家族の関係」、「栄養」、「疾病の原因と予防」、「ワクチンの重要性」、「リプロダクティブヘルスに関する情報」の啓発活動に参加した。これにより、住民からは「啓発活動で学んだ衛生活動事例を実施（手洗い、飲料水の塩素消毒）することにより子どもたちの下痢、発熱などの発症回数が減った（N'Batt、男性）」、「出産支援を受けることが当たり前になりつつある（N'Titam 女性）」といった意識や行動の変化が起きている。

これらの変化は啓発活動を長期間、繰り返すことで起きている。時間をかけて、複数の活動との相乗効果を通じて、少しずつ住民の意識や習慣が変わってくるのが PP 活動による教訓である。

2) ジェンダー・女性の能力強化に貢献している状況

a. 生活改善に有用な情報・研修へのアクセス向上

PP や地域リーダーによる活動(各種研修、AA/ASC による啓発活動、ガイド・マニュアルの配布等)を通じ、オアシスの女性が情報・研修にアクセスできるようになった。その結果、オアシス女性の生産技術ならびに生活技術に関する知識、技術の向上、基本的ニーズの充足、能力強化につながった。

b. 女性リーダー育成

本調査では、AA/ASC を地域フォーカルポイントと位置づけ、AA/ASC を通じて女性支援活動の調整を実施してきた。その結果、AA/ASC がオアシス内の複数の女性組織間の調整役となり、一つの研修を複数の組織と一緒に研修を受けたりできるようになるなど、より多くの人に情報の提供が可能となった。

c. 女性の意識向上とエンパワーメント

本調査では、女性リーダーを育成すると共に、これまで参加の機会が制限されていた女性たちに対し、研修の機会を提供してきた。特に、生活改善の視点として“外部から与えられる大きな変化を待つのではなく、今日の前にあるものを使った工夫から始める”という視点に重点を置いてきた。その結果、女性たちの中に「自分たちから生活改善が始められることがわかった (N'Titam・N'Batt 女性組合リーダー)」といった意識の変化が起こり、研修を受けることにより知識や技術を習得し、活動の多様化や幅を拡大させた。

3) 女性支援のための普及体制の強化

a. 女性省の能力強化

PP 実施や AP 策定などの OJT を通して、女性省においてオアシスにおける女性活動支援の戦略作りに係わる能力向上がみられるようになった。しかし、AP 実施に当たっては、プログラムを動かすだけでなく、女性支援が果たすオアシス開発へのインパクトを評価分析し、それによる方向性の修正作業を行う必要がある。これらについては、現状では必ずしも十分ではない。これらの不足する能力については、生活改善セミナーを通じた能力強化や定期的に外部専門家の力を借りながら実施する必要がある。

b. 女性支援のための行政普及体制の強化

PP を通じて、中央職員による州事務所の能力強化、州事務所職員によるオアシス女性の能力強化を行う中で、それぞれのレベルを結びつける普及体制の構築を目指した。中央では、調査・協力・モニタリング局及び女性活動促進局を中心とし、州事務所ではボランティアベースで活躍してきた女性たちを有効活用し、オアシスでの支援を行った。オアシスレベルでは、公的な支援(給与、フォローアップ等)を受けながら活動の継続性が確保される AA/ASC 等の女性リーダーを育成し、女性支援に係わる行政の窓口とした。これらを行政支援で結ぶことにより、中央からオアシスレベルまでの普及体制のモデルを構築することが可能となった。

4) 5 項目による総合評価

PP に関する 5 項目の視点からの評価を以下に示す。

i) 持続性・自立発展性

PP 期間を通じて、いずれの PP においても住民自身のイニシアティブにより活動を発展させてきており、その継続性に住民は強い意欲を持っている。PP で実施したオアシスレベルでの人材育成は、オアシスという限られた資源の中に置かれた住民の開発の持続性に効果的であったと判断される。

女性省は、本調査で作成した AP やガイド・マニュアルの内容を評価し、省予算でガイド類を印刷し、女性省全州事務所ならびに女性支援に係わる普及関係者へ広く配布した。女性省は、AP を本調査対象州内外で展開したい意向を持っており、事業化の資金を確保した。

ii) 妥当性

活動の主な対象は、これまで開発の裨益を受けにくかった女性・女性グループであり、PRSP や女性地位向上のための国家戦略等の国家政策に沿うものである。加えて、PP 期間中に、住民自ら必要資機材の共同購入や共同販売、さらに資金確保をして活動を発展させ販売を行うまでに至った。このように、PP 活動は女性のニーズに合致しているといえ、住民からみた妥当性も有している。PP で実施してきた AGPO との連携、住民リーダーの育成、育成したリーダによる普及展開、拠点方式による活動は、住民主体によるオアシス開発の基本施策からみても妥当である。

iii) 有効性

PP の女性支援活動は、生活に密接な「農業」、「保健医療」、「収入創出」等に係わるものである。生産物は、自家向け、余剰物の販売と効果的に活用されている。保健医療サービスは老若男女を問わず広く裨益している。PP 活動は収入源となるだけでなく、これまで支出していた費用(交通費・医療費、食料購入費、衣類の購入金額等)を節約することにより、活動の資金源、子供の教育費、不足する食料の確保といった、生活の改善、家庭内食料の自給向上に有効に機能する。

iv) インパクト

PP を通じて女性たちが自らの活動で食生活の改善、栄養改善、保健衛生の改善、家計費への貢献が可能となったこと、これらの活動を支援する住民リーダーが育成され、公的な給与を得て、持続的な活動が可能となった。この結果、女性や女性組織が裨益するに留まらず、家庭からグループへ、さらに地域社会での生活の改善へ発展してきている。

PP に参加した女性グループだけでなく他グループも含め女性たちは、PP の活動を反復し、その成果から自信を持ち始めた。

また、モ国ではこれまでに多くの助産士補の育成が行われたが、その有効活用には課題が残されていた。本調査で行った助産士補への追加研修（村落保健普及員、リーダー研修）により女性支援のできる住民リーダーが育成され、助産士補が従来よりも活動的になり、有効活用できることが検証されたことは一つのインパクトといえる。

(9) AP へのフィードバック

AP の最終化に際して、PP の教訓を反映すべき事項がいくつか指摘できる。ここでは PP を通じて得られた重要な教訓に基づいて AP の修正、及び明確化した事項に基づいて AP の追加修正を行う。

1) 教訓に基づいた修正

i) プログラムの見直し

中間評価の結果を受けて次の視点を PP に加える。

- a. 農業技術の改善と併せて、生活技術（染色、料理、かまど、栄養啓発等）の改善を一体的に実施する。
- b. AA/ASC を女性支援が担えるリーダーとして育成する。
- c. 女性省が中心となり、生活改善セミナー（生産技術、生活技術、住民育成等）を主導し

て実施する。

見直した PP 活動を通じて、オアシス開発において女性が果たす家庭内、及びオアシス社会における役割の重要性が確認できた。よって、上記の視点を AP へ反映させる。

ii) 効率的な普及方法

低コストで効率的な普及を行うために、以下の事項に配慮した活動を行う。

- a. 生活改善セミナーを普及手法として取り入れる。
- b. デモンストレーション、技術紹介ワークショップ、ガイド・マニュアルの住民への配布、住民交流等を組み合わせた普及を取り入れる。
- c. 女性リーダーによる普及、グループ内普及及びグループ間交流を通じた住民間普及を取り入れる。
- d. 女性のニーズが高く、家庭への裨益がわかりやすい、野菜、養鶏、染色、裁縫等の活動をエントリー活動として初期から導入する。
- e. 女性を対象とした活動でも男性（夫）による女性活動への理解醸成を初期から配慮する。

iii) AA/ASC の女性支援活動への活用

本調査で育成した AA/SC は、現在では保健分野の活動を越えて、女性活動の支援における必要不可欠なリーダーとなっている。

AA/ASC が住民に受け入れられた理由は、①住民によって選ばれていること、②正規の研修を受け専門知識を有すること、③健康問題を軸として住民にアプローチできること、④多様な住民ニーズに応えられる生活の改善という枠組みで啓発ができること、など従来の女性リーダー像にはないものを有しているからである。このような AA/ASC の地域リーダーとしての活用は、今後の女性支援の一つのモデルとなる。

2) 明確化した事項

PP 活動を通じて、以下の事項が明確化したので AP へ反映させる。

i) 対象オアシスの数

PP を通じて、AP の実施では AGPO ならびに AA/ASC の役割が極めて重要であることが確認できた。よって、AP における対象オアシスは①AGPO が設立され、かつ AA が配置されているオアシス 26、②AGPO がなく、AA が配置されているオアシス 13 を対象とする。

ii) 実施体制の明確化

a. AP 実施体制への反映

女性支援やジェンダーに関する調整と技術官庁との連携のあり方や課題が明確化した。

中央レベル：女性省が全体の調整実施機関、保健省と農牧省が協力機関となり、それぞれの分野において協調関係を築くものである。女性省は、女性組織支援や意識向上などに関わる横断的、ソフト面的な支援を実施する。農牧省は、女性省と協力しながら「生産技術」「生活技術」の分野において、技術支援を中心に実施する。女性省と保健省は、AA/ASC の育成において、地域保健活動支援と女性活動の推進における連携を行う。

州レベル：州レベルにおいては、女性省が中心となり保健省及び農牧省州事務所を調整するものである。女性省が中心となり、保健省、農牧省と共に定期的に活動計画の策定・見直し、現場からのフィードバックを行う。

b. 女性省のさらなる強化による円滑な AP 実施

AP においては、女性省が他省庁との調整・連携を図りながら多分野に跨る女性支援プログラム（農業、保健、収入創出・生活技術、組織支援）を実施する。女性省においては、不足する計画・実施・調整能力の面で課題が残されており、AP 実施の初期の段階においては、女性省の能力強化を事業の展開を併せて実施（1～2 年目）し、円滑な立ち上がりを目指すことが求められる。

第 7 章 結論及び提言

(1) 結論

本調査の結果においては、閉鎖空間であり隔絶された状況にあるオアシス開発において女性が果たす家庭内、及びオアシス社会における役割の重要性が確認できた。また、オアシス社会の持続的開発における女性の潜在的な能力の活性化が重要な要素であることが明確となった。

本調査で提案する女性支援のアクションプラン（AP）は、オアシス地域住民の生活改善、家庭内食料安全に寄与すると共にジェンダー配慮・女性の能力向上にも貢献し、それによりオアシス開発、さらに貧困削減にも寄与することが確認できた。従って、モ国政府、特に女性省は自国内予算あるいは対外支援も活用し、同 AP を Adrar, Tagant の対象 2 州において実施、普及展開を図るべきである。さらに同 AP を他州の女性支援にも活用すべきである。

(2) 提言

- i) 提案する AP は、貧困削減戦略ならびに女性地位向上のための国家戦略に沿ったものである。AP は、Adrar 州と Tagant 州のモデルオアシスにおける検証活動を通じて策定されたが、女性省により施策の一環として広く農村地域全般に適用することを提言する。
- ii) 女性による生活改善の活動が住民生活の中に定着していくには、活動自体を住民自身で管理し、考え発展させていく必要がある。それゆえ、行政は物的支援の投入だけではなく技術的支援を重視すべきである。
- iii) 本 AP は、生活環境の改善、栄養改善、女性の潜在能力の活性化、貧困緩和等に寄与することから、オアシス社会を持続的に維持するために早急を実施する必要がある。また、女性支援を担う人材の育成に関して技術支援を必要とする活動については、海外からの技術協力を早急に要請する必要がある。
- iv) 保健省は、保健分野に関して女性省へ連携協力し、これまで育成してきた助産士補(AA)に対して村落保健普及(ASC)の追加研修、また今後育成する AA に対して ASC の同時研修を行い、オアシスレベルの人材の有効活用を図ることを提言する。
- v) 農牧省は、農業分野に関して女性省へ連携協力し、かつ本 AP が PDDO や PDRC のプログラムと補完関係にあることから、事業実施による相乗効果を高めるため、両プログラムへ本 AP の活動を取り込むよう働きかけることを提言する。
- vi) 女性省と保健省は、2007 年から開始された PASN(世銀)のプログラムの内容が本 AP と類似性があることから、同プログラムの中に本 AP の活動を取り込むよう働きかけることを提言する。

モーリタニア国
オアシス地域の女性支援のための開発調査
ファイナルレポート

目次

調査対象地域位置図

要約

目次

図表リスト

略語表

換算・度量衡

第1章 序論

1.1	はじめに.....	1-1
1.2	調査の目的.....	1-1
1.3	調査工程.....	1-2
1.4	調査対象地域.....	1-2
1.5	調査実施体制.....	1-2

第2章 調査の背景

2.1	背景.....	2-1
2.2	国家政策及び上位計画.....	2-1
2.2.1	貧困削減戦略(CSLP).....	2-1
2.2.2	女性地位向上のための国家戦略.....	2-2
2.2.3	農村地域開発政策.....	2-3
2.3	関連省.....	2-3
2.3.1	女性省(MCFEF).....	2-3
2.3.2	農牧省(MAE).....	2-5
2.3.3	保健省(MS).....	2-6
2.4	オアシス地域の概況.....	2-7
2.4.1	概況.....	2-7
2.4.2	農業.....	2-8
2.4.3	社会状況の変化.....	2-10

第3章 調査地域の概況

3.1	自然条件.....	3-1
3.1.1	気象.....	3-1
3.1.2	地形.....	3-1

3.1.3	植生	3-1
3.1.4	水文地質	3-2
3.2	社会経済状況	3-2
3.2.1	行政区分	3-2
3.2.2	人口	3-2
3.2.3	地域経済	3-2
3.3	ジェンダーイシュー	3-3
3.3.1	ジェンダー主流化への取り組み.....	3-3
3.3.2	オアシス社会におけるジェンダーイシュー.....	3-4
3.3.3	女性の意思決定への参加.....	3-7
3.4	農業.....	3-7
3.4.1	作物・畜産生産の現状	3-7
3.4.2	水利用	3-10
3.4.3	農産物流通	3-12
3.4.4	オアシスにおける資源利用.....	3-13
3.4.5	農業普及・農民支援活動.....	3-15
3.5	保健衛生.....	3-16
3.5.1	概況	3-16
3.5.2	保健医療サービス	3-17
3.5.3	住民の保健知識	3-18
3.5.4	出産を取り巻く状況	3-19
3.5.5	栄養に関する知識と住民の意識.....	3-19
3.6	収入創出活動.....	3-20
3.6.1	女性を取り巻く状況と収入創出活動.....	3-20
3.6.2	行政及び各機関の活動状況.....	3-22
3.7	オアシス開発	3-24
3.7.1	オアシス持続的開発計画(PDDO).....	3-24
3.7.2	農村コミュニティ開発プロジェクト(PDRC).....	3-25
3.7.3	保健栄養支援プロジェクト(PASN).....	3-26

第4章 開発の課題

4.1	フェーズ1 調査及び類似プロジェクトの経験	4-1
4.2	対象オアシス地域の開発課題	4-2
4.3	課題群と開発課題	4-2
4.4	ジェンダーと生活改善	4-3
4.5	女性ニーズの充足の必要性	4-5
4.6	フェーズ1 調査からフェーズ2 調査への発展	4-6

第5章 アクションプラン

5.1	基本概念	5-1
5.2	開発のアプローチ	5-3
5.2.1	地域資源の有効利用	5-3
5.2.2	マルチセクターアプローチ	5-3
5.2.3	もったいない思想の普及(低コストアプローチ)	5-3
5.3	アクションプラン	5-4
5.3.1	対象地域とグループ	5-4
5.3.2	目標	5-4
5.3.3	期待される成果	5-4
5.3.4	計画	5-6
5.4	実施体制	5-8
5.4.1	中央・州レベルの実施体制	5-8
5.4.2	オアシスから見た実施体制	5-12
5.5	実施計画	5-14
5.5.1	実施フェーズ	5-14
5.5.2	実施スケジュール	5-14
5.5.3	アクションプランの活用方法と実施手順	5-18
5.5.4	普及方法	5-19
5.5.5	モニタリング評価	5-20
5.5.6	事業費	5-21

第6章 パイロットプロジェクトの実施

6.1	パイロットプロジェクトの計画	6-1
6.1.1	概要	6-1
6.1.2	実施方針	6-4
6.1.3	対象オアシスの選定	6-4
6.2	パイロットプロジェクトの実施状況と成果	6-9
6.2.1	実施工程	6-9
6.2.2	パイロットプロジェクトの中間評価	6-11
6.2.3	パイロットプロジェクトの成果	6-15
6.3	パイロットプロジェクトの最終評価と実施から得た教訓	6-53
6.3.1	概要	6-53
6.3.2	生活改善・貧困改善に貢献している状況	6-55
6.3.3	ジェンダー・女性の能力強化に貢献している状況	6-63
6.3.4	女性支援のための普及体制の強化	6-68
6.3.5	5項目による総合評価	6-70
6.3.6	オアシスの類型化による結果の検討	6-72

6.4	アクションプランへのフィードバック	6-73
6.4.1	概要	6-73
6.4.2	教訓に基づいた修正	6-73
6.4.3	明確化した事項	6-74

第7章 結論及び提言

7.1	結論	7-1
7.2	提言	7-2

附属資料

関連省組織図

事業費の内訳

S/W 及び S/W に関するミニッツ・オブ・ミーティング

ステアリングコミッティに関するミニッツ・オブ・ミーティング

List of Figures

図 1.1.1	本調査のフロー	1-3
図 3.1.1	月別降水量と平均気温(Atar、Tidjikja).....	3-1
図 3.1.2	Atar と Tijikja 観測所による月平均気象パラメータの現況.....	3-28
図 3.1.3	調査対象地域における年間降水量変化	3-29
図 3.4.1	一回のかんがい水量説明図	3-11
図 3.4.2	N'Titam オアシスにおける地域資源利用の流れ	3-15
図 3.5.1	AA/ASC による治療が行なわれた疾病 (2007 年 1 月～9 月)/Adrar 州	3-17
図 3.5.2	AA/ASC による治療が行なわれた疾病 (2007 年 1 月～9 月)/Tagant 州	3-17
図 3.5.3	衛生施設の設置状況	3-18
図 5.1.1	女性の潜在能力の活性化からオアシスコミュニティ開発への概念 1	5-1
図 5.1.2	女性の潜在能力の活性化からオアシスコミュニティ開発への概念 2	5-2
図 5.3.1	アクションプランと成果	5-5
図 5.4.1	実施体制	5-11
図 5.4.2	オアシス内と州を結ぶ普及体制	5-13
図 5.5.1	低コスト型の普及方法	5-20
図 5.5.2	成功体験を住民が普及行政の支援を受けて運ぶ流れ	5-20
図 6.1.1	パイロットプロジェクト対象オアシス位置図 Adrar 州	6-81
図 6.1.1	パイロットプロジェクト対象オアシス位置図 Tagant 州	6-82
図 6.2.3.(1).1	モーリタニア国内各地での野菜価格変動	6-84
図 6.2.3.(1).2	PP 野菜栽培試験圃場の試験区設定	6-85
図 6.2.3.(1).3	2006 年通常時期栽培暦	6-86
図 6.2.3.(1).4	PP における収量と CNRADA 指針による目標収量との比較	6-21
図 6.2.3.(1).5	月平均気温、最低気温と地下水位の経時変化.....	6-28
図 6.2.3.(1).6	Tirabane における養鶏農家、飼育羽数の変化	6-31
図 6.2.3.(2).1	女性組織支援の段階的取り組み	6-36
図 6.2.3.(2).2	PP の活動内容と成果の概要	6-39
図 6.2.3.(2).3	女性組合の正式登録数の変化	6-40
図 6.2.3.(2).4	ローカルレベルでの販売網の確立(染色の例).....	6-42
図 6.2.3.(3).1	IEC 活動のテーマと参加者数	6-46
図 6.2.3.(3).2	各州で取り上げられた IEC テーマの違い	6-46
図 6.2.3.(3).3	IEC 手法ごとの実施頻度の変化	6-47
図 6.3.2.1	N'Titam における PP 実施前と実施後の制裁物利用変化	6-57
図 6.3.2.2	Tirabane における栽培経験年数と野菜消費傾向	6-58

図 6.3.2.3	女性たちが生活において改善されたと実感しているもの	6-59
図 6.3.2.4	収入創出活動から得た利益の使い道	6-60
図 6.3.2.5	鶏販売価格別の戸数	6-61
図 6.3.3.1	収入創出活動を通じて得られた満足感の理由	6-66
図 6.3.3.2	4 オアシスの女性のエンパワーメント指標	6-67

List of Tables

表 2.3.1	2005 年度保健省医療制度別予算	2-7
表 3.2.1	調査地域の人口	3-2
表 3.2.2	世帯主別の収入内訳	3-3
表 3.3.1	男女別による家計出費の役割	3-5
表 3.4.1	モーリタニアの作物耕作面積と生産量	3-7
表 3.4.2	Adrar、Tagant 州の土地利用	3-8
表 3.4.3	オアシスにおける野菜栽培慣行農法	3-8
表 3.4.4	Adrar、Tagant 州の畜産飼育頭数	3-9
表 3.4.5	揚水方法	3-10
表 3.4.6	作物消費水量	3-12
表 3.4.7	点滴かんがいの現状	3-30
表 3.4.8	N'Titam 地区の家畜飼育方法	3-13
表 3.4.9	N'Titam オアシスにおける土地利用及び家畜飼育の状況	3-14
表 3.4.10	Adrar、Tagant 州の農業普及関連職員数と活動内容	3-16
表 3.5.1	オアシス地域における医療施設設置状況（Adrar 州）	3-31
表 3.5.2	オアシス地域における医療施設設置状況（Tagamt 州）	3-32
表 3.5.3	出産サポート有無と出産場所	3-19
表 3.6.1	生産活動と現状と原因	3-20
表 3.6.2	販売活動の現状と原因	3-21
表 3.6.3	女性組合や女性グループの運営の現状と原因	3-21
表 4.2.1	対象 2 州におけるオアシス住民が抱える問題と課題	4-2
表 4.3.1	開発課題と支援方向	4-3
表 4.3.2	ジェンダー・ルールの変化と女性の現況	4-4
表 4.5.1	男性・女性がそれぞれ抱える問題(N'Titam 及び Tirabane の例)	4-5
表 4.6.1	フェーズ 1 調査の実証調査と成果・課題	4-6
表 4.6.2	フェーズ 1 調査における実証調査と優先事業の関係	4-7
表 4.6.3	フェーズ 1 おける各実証試験地の概要	4-9

表 4.6.4	フェーズ 2 調査時の野菜栽培実証試験地の実績・所見と課題	4-11
表 5.5.1	対象オアシスのリスト	5-15
表 5.5.2	実施スケジュール	5-16
表 5.5.3	各活動における各省の役割	5-17
表 5.5.4	女性支援のためのプログラム概算費用	5-22
表 6.1.1	フェーズ 1 調査の実証調査から本調査のパイロットプロジェクトへ	6-76
表 6.1.2	ドラフト AP における事業メニューと主な活動内容	6-78
表 6.1.3	ドラフト AP とパイロットプロジェクト項目の関係	6-79
表 6.1.4	パイロットプロジェクトの主な活動	6-3
表 6.1.5	パイロットプロジェクト実施対象オアシスの選定基準	6-5
表 6.1.6	対象オアシスの選定結果表	6-80
表 6.1.7	対象オアシスの汎用性と評価	6-6
表 6.1.8	対象オアシスと PP 実施項目	6-6
表 6.2.2.1	中間評価の聞き取り対象とねらい	6-11
表 6.2.2.2	中間評価結果の概要	6-12
表 6.2.2.3	女性支援の視点からの PP の整理	6-15
表 6.2.3.(1).1	パイロットプロジェクト参加女性グループの運営圃場・栽培活動状況	6-83
表 6.2.3.(1).2	野菜栽培における技術移転項目	6-16
表 6.2.3.(1).3	野菜栽培 PP 実施概要	6-16
表 6.2.3.(1).4	2006 年通常・暑期継続栽培活動	6-17
表 6.2.3.(1).5	Tirabane における主要野菜の収穫期間 (2006 年栽培作)	6-17
表 6.2.3.(1).6	Tirabane における野菜作物の収量(2006 年栽培作)	6-18
表 6.2.3.(1).7	野菜栽培試験の設定	6-18
表 6.2.3.(1).8	2006 年通常栽培の生産実績	6-19
表 6.2.3.(1).9	2006 年通常野菜生育状況	6-86
表 6.2.3.(1).10	通常野菜作収量のフェーズ 1 調査と今回調査との比較	6-19
表 6.2.3.(1).11	オアシスにおける可能な収量範囲	6-21
表 6.2.3.(1).12	2007 年暑期栽培のスケジュール	6-22
表 6.2.3.(1).13	2007 年暑期栽培の生産結果	6-22
表 6.2.3.(1).14	被陰効果	6-22
表 6.2.3.(1).15	バスケット用材料の特性	6-23
表 6.2.3.(1).16	PP 実施による行動及び意識の変化(直接的)	6-24
表 6.2.3.(1).17	PP 実施による行動及び意識の変化(間接的)	6-24
表 6.2.3.(1).18	主な作物の収量と灌水量	6-25
表 6.2.3.(1).19	主な作物の収量と灌水量	6-87
表 6.2.3.(1).20	作付けカレンダー	6-28

表 6.2.3.(1).21	対象グループと支援内容	6-30
表 6.2.3.(1).22	養鶏技術向上活動の概要	6-30
表 6.2.3.(1).23	養鶏技術の概要	6-88
表 6.2.3.(2).1	収入創出・生活技術研修の支援と概要	6-34
表 6.2.3.(2).2	収入創出活動支援で実施された技術研修の概要.....	6-34
表 6.2.3.(2).3	生活改善セミナーの概要	6-35
表 6.2.3.(2).4	生活技術研修の概要	6-35
表 6.2.3.(2).5	女性グループの育成支援の概要	6-36
表 6.2.3.(2).6	啓発普及支援(IEC)の概要	6-37
表 6.2.3.(2).7	女性地位向上とジェンダー・女性活動促進のための啓発普及.....	6-38
表 6.2.3.(2).8	収入創出・生活技術研修・支援の結果	6-39
表 6.2.3.(2).9	女性グループから女性連合へ動き	6-40
表 6.2.3.(3).1	保健衛生分野 PP 活動 1 の内容.....	6-43
表 6.2.3.(3).2	保健衛生分野 PP 活動 2 の内容.....	6-43
表 6.2.3.(3).3	AA/ASC が行なった支援.....	6-45
表 6.2.3.(3).4	AA/ASC による医薬品販売による収入額/月.....	6-48
表 6.2.3.(4).1	女性省の能力強化の活動概要	6-49
表 6.2.3.(4).2	女性省州事務所職員の能力強化の概要	6-51
表 6.3.1.1	最終評価の聞き取り方法.....	6-53
表 6.3.1.2	PP による期待される成果と評価指標.....	6-54
表 6.3.1.3	普及体制の構築状況に係わる成果と評価指標	6-55
表 6.3.2.1	女性たちにとって最も活発化した活動	6-55
表 6.3.2.2	対象オアシスごとの主要野菜収量.....	6-56
表 6.3.2.3	オアシス別の野菜栽培品種の変化(調査開始前との比較).....	6-56
表 6.3.2.4	PP 自家消費と販売の割合(2006/07 年通常栽培).....	6-57
表 6.3.2.5	オアシスごとの野菜販売による売上(2006 年通常栽培).....	6-60
表 6.3.2.6	染色・裁縫の販売額.....	6-61
表 6.3.3.1	情報・研修のアクセス改善とその効果	6-63
表 6.3.3.2	女性組織の能力・組織化に関する変化	6-64
表 6.3.3.3	AGPO への女性参加者数及び女性組織数の推移	6-68

略語表 (1/2)

略語	フランス語	日本語
AA	Accoucheuses Auxiliaires	助産師補助
ADC	Association de Développement Communautaire	コミュニティ開発委員会 (PDRC)
ADI	Association de Développement International	国際開発協会 (IDA)
AG	Assemblée Générale	総会
AGPO	Association de Gestion Participative des Oasis	オアシス参加型管理組合
AGRIMET	Division agrométéorologie	農業気象庁
ASECNA	Agence pour la Sécurité de la Navigation Aérienne en Afrique et à Madagascar	航空安全局
ASC	Agent de Santé Communautaire	村落保健普及員
AVB	Agent de Vulgarisation de Base	普及員
BAD	Banque Africaine de Développement	アフリカ開発銀行
BADE	Banque Africaine de Développement Economique	アフリカ経済開発銀行
BAPEM	Bureau d'Appui à Petite Entreprise Artisanale en Mauritanie	モーリタニア手工芸中小企業支援事務所 (NGO)
BIT	Bureau International de Travail (ILO)	ILO事務局
CAC	Centre d'Alimentation Communautaire	地域食糧センター
CAMEC	Centre d'Achat de Médicament Essentiel et Consommable	必須消費医薬品購入センター
CE	Conductivité électrique	電気伝導率
CFPF	Centre de Formation pour la Promotion Féminine	女性の活動推進のための訓練センター
CNRE	Centre National des Ressources en Eau	国家水資源センター
CNRADA	Centre National de Recherche Agronomique et de Développement Agricole	農業研究・農業開発センター
COS	Comité d'Orientation et de Suivi	企画・モニタリングコミッティ (PDDO)
CPSSA	Commisariat à la Protection Sociale et à la Sécurité Alimentaire	社会保障・食料安全機構
CRA	Cellule Régionale d'Appui	州事務所 (PDDO)
CRC	Comité Régional de Coordination	州調整委員会 (PDRC)
CREN	Centre de Réhabilitation et d'Education Nutritionnelle	栄養リハビリセンター
CS	Centre de Santé	医療センター
CSLP	Les cadres stratégiques de lutte contre la pauvreté	貧困削減戦略 (PRSP)
CTSN	Comité Technique du Suivi de la Nutrition	栄養評価技術委員会
DP	Diagnostic Participatif	参加型分析調査
DPCSE	Direction des Politiques, de la Cooperation, du Suivi et de l'Evaluation	政策協力モニタリング評価局 (農業牧畜省)
DRPSS	Direction Régionale de la Promotion Sanitaire et Sociale	州保健社会促進事務所 (保健省)
E/T	Etendue des Travaux	実施細則 (S/W)
EDP	Etude de diagnostic Participatif	簡易農村調査手法 (RRA)
EDSM	Enquête Démographique et de Santé Mauritanie	モーリタニア人口保健調査
EMEA	Enquête auprès de Ménages et des Exploitants Agricoles	農家と農民に関する調査
EPCV	Enquête Permanente sur les Conditions de Vie des Ménages	家庭における生活状況の調査
FADES	Fonds Arabe pour le Développement Economique et Social	アラブ開発基金
FEM	Fonds pour l'Environnement Mondial	世界環境基金
FIC	Fonds d'Investissement Communautaire	コミュニティ投資ファンド (PDDO)
FIDA	Fonds International pour le Développement Agricole	国際農業開発基金 (IFAD)
FIV	Fonds d'Investissement Villageois	村落投資ファンド (PDRC)
FMI	Fonds Monétaire International	国連通貨基金 (IMF)
FNUAP	Fonds des Nations Unies pour l'Amélioration des Populations	国連人口基金
GPF	Groupement de Promotion Féminine	女性グループ
GSG	Groupe de Suivi de Genre	ジェンダー・フォローアップ・グループ
GTSN	Groupe Technique Spécialisé de la Nutrition	栄養専門家技術会
GTZ	Deutsche Gesellschaft für Technische Zusammenarbeit (Allemagne)	ドイツ技術協力公社
IEC	Information, Education, Communication	IEC
JICA	Agence Japonaise de Coopération Internationale	国際協力機構
MEF	Ministère de l'Economie et des Finances	経済財務省
MATIS	Mauritanienne de Tissage	モーリタニア織物協同組合
MCP	Matrice de Conception de Projet	プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)
MCPFEF	Ministère Chargé de la Promotion Féminine, de l'Enfance et de la Famille	女性子供家族省 (旧女性地位向上庁)
MAE	Ministère de l'Agriculture et de l'Elevage	農業牧畜省
MEN	Ministère de l'Education Nationale	国家教育省

略語表 (2/2)

略語	フランス語	日本語
MICO	Mutuelles d'Investissement et de Crédit Oasien	オアシス相互補助金庫 (PDDO)
MS	Ministère de la Santé	保健省
OAA	Organisation pour l'Alimentation et l'Agriculture	国連食糧農業機関 (FAO)
OMS	Organisation Mondiale de la Santé	世界保健機構 (WHO)
ONG	Organisation Non Gouvernementale	非政府組織 (NGO)
P/D	Plan Directeur	マスタープラン (M/P)
PAROA	Projet d'Aménagement des Oasis d'Adrar	アドラル州オアシス農村整備計画
PASN	Projet d'Appui aux secteurs de la Santé et de la Nutrition	保健栄養セクター支援計画
PARP	Projet d'Aménagement en Région Pluviale	降雨地域改良プロジェクト
PDC	Plan de Développement Communautaire	コミュニティ開発計画
PDCO	Plan de Développement Communautaire Oasien	オアシスのコミュニティ開発計画
PDDO	Programme de Développement Durable des Oasis	オアシス持続的開発計画 (IFADプロジェクト)
PDRC	Projet de Développement Régional Communautaire	コミュニティ地域開発計画 (世銀プロジェクト)
PGRNP	Projet de Gestion des Ressources Naturelles en zone Pluviale	降雨地域自然資源管理プロジェクト
PIB	Produit Intérieur Brut	国内総生産 (GDP)
PIBR	Produit Intérieur Brut Régional	域内総生産 (GRDP)
PIC	Plan d'Investissement Communautaire	コミュニティ投資計画
PLEMVASP	Projet de Lutte contre l'Ensamblage et Mise en Valeur Agro-Sylvo-Pastorale	農畜産業開発戦略プロジェクト
PPTE	Pays Pauvres et très Endettés	重債務国
PNBG	Programme nationale de bonne gouvernance	グッドガバナンス国家計画
PNUD	Programme des Nations Unies pour le Développement	国連開発計画 (UNDP)
PRS	Programme Régional Solaire	地域太陽光プログラム
PS	Poste de Santé	保健ポスト
PSA	Projet des Service Agricoles	農業サービスプロジェクト
RAS	Rapport d'Adsorption de Sodium	塩吸着比率 (SAR)
RIM	République Islamique de Mauritanie	モーリタニア・イスラム共和国
SAM	Service Aérien Météorologique	大気気象局
SES	Service d'Education pour la Santé	保健教育課 (保健社会事業省疾病予防局内)
SIG	Système d'information géographique	地理情報システム (GIS)
SNMG	Stratégie Nationale en Matière de Genre	ジェンダーに関する国家戦略
SNPF	Stratégie Nationale de Promotion Féminine	女性支援の国家戦略 (2005-2008)
SONADER	Société Nationale pour le Développement Rural	農村開発公社
SONELEC	Société Nationale d'Eau et d'Electricité	水・電気公社
SONIMEX	Société Nationale d'Importation et d'Exportation	輸出入公社
TMCA	Taux Moyen de Croissance Annuelle	平均年間成長率
TS	Technicien Spécialisé	農業牧畜省の技官
UAGPO	Union d'Association de Gestion Participative des Oasis	AGPO連合
UCC	Unité Centrale de Coordination	中央調整ユニット (PDRC)
UCP	Unité de Coordination du Programme	中央レベルのプロジェクト調整ユニット (PDDO)
UE	Union Européenne	欧州連合 (EU)
UM	Ouguiya Mauritanien	モーリタニア ウギア (通貨単位)
URC	Unité Régionale de Coordination	州調整ユニット (PDRC)
URDO	Unité Régional de Développement des Oasis	州オアシス開発事務所 (オアシスプロジェクト)
USB	Unité de Santé de Base	診療所ユニット

度量衡

単位	フランス語	英語	日本語
mm	millimètre	millimeter	ミリメートル
cm	centimètre	centimeter	センチメートル
m	mètre	meter	メートル
km	kilomètre	kilometer	キロメートル
m ²	mètre carré	square meter	平方メートル
km ²	kilomètre carré	square kilometer	平方キロメートル
a	are	are	アール
ha	hectare	hectare	ヘクタール
m ³	mètre cube	cubic meter	立方メートル
l	litre	liter	リットル
kg	kilogramme	kilogram	キログラム
t	tonne	ton	トン
mASL	mètre sur niveau de mer	meter above sea level	海拔標高
sec	seconde	second	秒
min	minute	minute	分
h	heure	hour	時間
μS	micro siemens	micro siemens	マイクロジーメンズ
UM	ouguiya mauritanienne	mauritanian ouguiya	モーリタニアウギア
%	pour cent	per cent	パーセント
°C	degré centigrade	degree centigrade	摂氏温度

第 1 章

序 論

第1章 序章

1.1 はじめに

我が国は2001年4月から2004年9月の期間にモーリタニア国 Adrar 州及び Tagant 州を対象として「オアシス地域開発計画調査」（以下フェーズ1調査）を実施した。同調査の目的は、“住民自身が持続的な資源利用に基づき、安定した生計を確立できる体制を構築する”ことにあった。このため、同調査ではモーリタニア政府の国家戦略に基づいて、2015年までに①農村地域の貧困者半減、②保健衛生状況の改善、③住民による水資源管理システム構築を達成することを目標とした「オアシス地域開発計画」（以下「マスタープラン」）を策定した。

オアシス地域の開発については、これまで IFAD（国際農業開発基金）と FADES（アラブ開発基金）の支援により、当時の地域開発環境省（現農牧省）オアシスプロジェクト（第Iフェーズ：1985-1993、第IIフェーズ：1995-2003）を実施している。その活動は、住民の組織制度強化（オアシス参加型管理組合：AGPO の設立など）を中心として、農業開発、水資源開発、環境保護等を行ってきた。2005年からは8カ年の予定で第IIIフェーズ（PDDO）を開始している。

一方、住民主体の持続的な地域開発事業を、他のオアシスや小規模オアシスにも普及・拡大していくためには、関連機関（農牧省オアシスプロジェクト局及び農業局、女性省（以下、女性省と表記、元女性地位向上庁）、経済開発省、国家水資源センター、保健省（元保健社会事業省）等ならびに住民組織の人材育成や能力向上による普及体制の強化が不可欠である。さらにオアシス地域においては、モーリタニア政府の女性に対する支援が行き届き難い状況にあるため、貧困緩和、及び女性の生活向上のために、女性に焦点を当てた地域開発の計画策定が求められている。

この様な状況に鑑み、モーリタニア国は我が国に対し、フェーズ1調査に続く調査として、オアシス地域におけるジェンダーに配慮した地域開発と普及拡大を可能とするアクションプランの策定、ならびに実施機関である女性省のキャパシティビルディングの実施を要請してきた。これを受けて、我が国は事前調査団を現地に派遣し、「モーリタニア国オアシス地域の女性支援のための開発計画調査」（以下フェーズ2調査）の実施に合意し、2004年12月22日にモーリタニア政府との間で実施細則（S/W）を締結した。

1.2 調査の目的

本調査の目的は以下のとおりである。

- (1) ジェンダーに配慮したオアシス住民の生活改善・貧困緩和のための地域開発の方策（アクションプラン）を明らかにする
- (2) 女性省及びその他関連機関の人的・組織的能力が向上することを目的とする

上記のアクションプラン（以下 AP）は、モーリタニア国のこれまでのオアシス開発の経緯を反映

して作成され、住民、政府職員、NGO 等によって活用されていかなければならない。そのため、AP の骨子（ドラフト）を作成し、これに基づいてパイロットプロジェクト（以下 PP）を現場において関係機関と試行する。ここから得られる教訓や提言を踏まえて、調査地域で活用されるジェンダーに配慮した生活改善・貧困緩和のための地域開発及び普及に向けた方策（AP）へフィードバックし、より実現性のある AP としての具体化を図る。

1.3 調査工程

本調査は 2005 年 9 月～2008 年 3 月までの 31 ヶ月間に亘り実施される。調査は以下の 2 つのステップからなる。

【ステップ 1：2005 年 9 月～2005 年 12 月】

ドラフトアクションプラン策定

ジェンダーに配慮した生活改善・貧困緩和のための地域開発及び普及に向けた具体的方策、女性省を中心とする関連機関の人材育成と能力強化のための具体的方策を検討し、ドラフトアクションプラン（以下ドラフト AP）としてまとめる。なお、オアシス地域の開発事業を担うオアシスプロジェクトフェーズ III（PDDO）他、既存プロジェクトとの連携・協調関係を築くよう留意する。

【ステップ 2：2006 年 1 月～2008 年 3 月】

パイロットプロジェクト(PP)の実施及びアクションプラン策定

ドラフト AP の各計画の検証と関連機関の人材の OJT を目的とした PP を実施する。さらに PP のモニタリング・評価結果に基づき、PP の実施より学んだ教訓をドラフト AP にフィードバックし AP の最終案を策定する。

1.4 調査対象地域

本調査の対象地域は、ステップ 1 では Adrar 州及び Tagant 州のオアシス 117 ヶ所、ステップ 2 では上記 2 州の拠点オアシス数ヶ所と小規模オアシス数ヶ所とする。

1.5 調査実施体制

本調査の主カウンターパート機関は女性省である。また、調査の円滑な推進と関連機関との連携強化を目的にステアリングコミッティ（以下 SC）を組織する。同コミッティの構成メンバーは以下の機関である。

- | | |
|------------------|------------------|
| - 女性省 | - 経済財務省 |
| - 農牧省政策立案モニタリング局 | - 農牧省農業局 |
| - 農牧省調査研究普及局 | - 農牧省オアシスプロジェクト局 |
| - 保健省 | - 国家水資源センター |

州レベルでは、オアシス開発に係わる関連機関の代表からなる州 SC を設置し、情報の共有、調

整を行う。同コミッティの中に、オアシスでの普及活動に係わる実務者からなる技術委員会（女性省州事務所長、農牧省州事務所代表（技官、普及員含む）、保健省代表、AGPO 代表（AGPO 連合はオブザーバー）を設け、定期的に本調査の PP 活動及びオアシス開発に係わる活動の調整を行う。

図 1.1.1 に本調査のフローを示す。

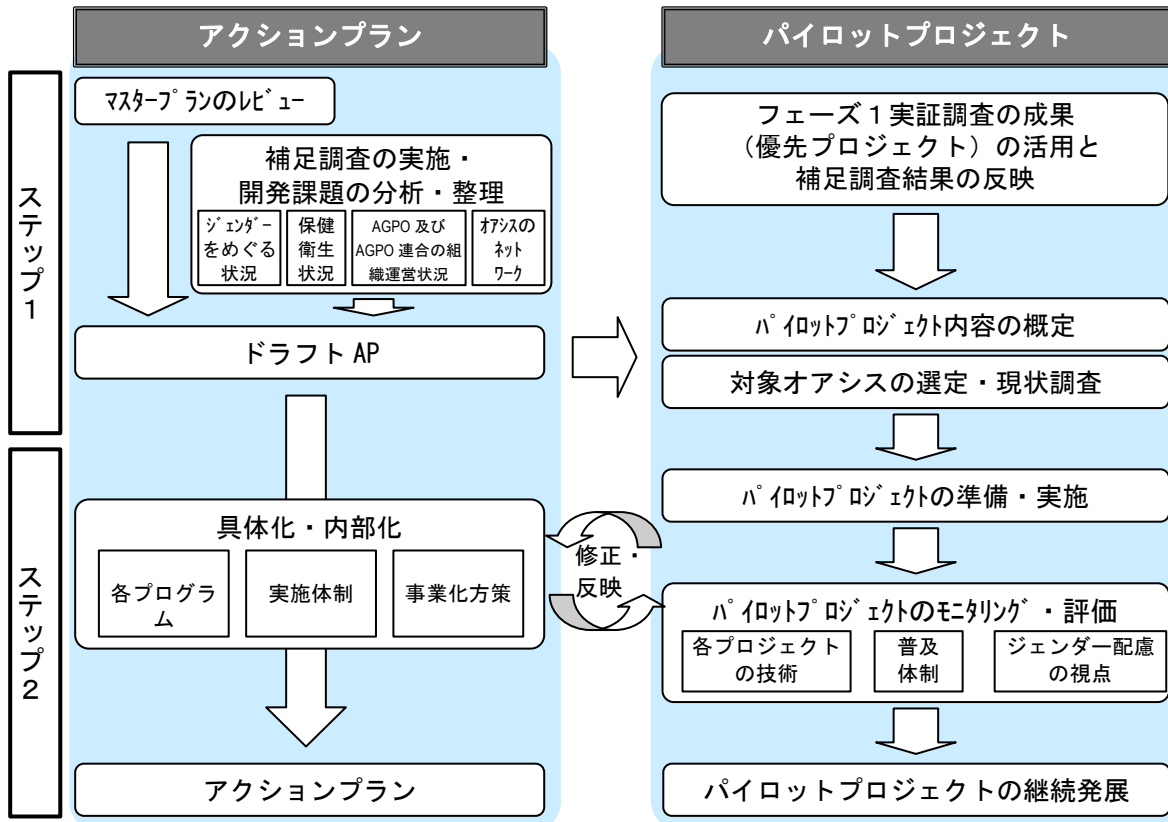


図 1.1.1 本調査のフロー

1.6 フェーズ 1 調査からフェーズ 2 調査へ

フェーズ 1 調査（2001 年 4 月～2004 年 9 月）のマスタープランでは、1) 貧困緩和、2) 社会インフラの整備、3) 資源の持続的利用を開発の基本構想と定め、女性の経済活動を軸として、1) 野菜技術改善、2) 保健衛生状況改善、3) 小規模・遠隔地の生活環境改善等が優先プロジェクトとして提案されている。また、これらのプロジェクトの実施アプローチとして、1) 拠点オアシスの育成、2) 女性の経済活動支援、3) 既存の組合組織利用、4) 小規模・遠隔地オアシスへの配慮を上げている。加えて、実証調査を通じて、オアシス開発における女性の果たす役割の重要性を明らかにしている。

本調査では、上記の優先プロジェクトやアプローチを踏襲しつつ、フェーズ 1 調査で不十分であった、1) 住民による活動の持続性や技術の定着、2) オアシス内外への技術の普及に関する改善、加えて 3) 本調査の課題であるジェンダー・女性支援のあり方についてモデルオアシスにおいて PP を通じた検証を行い、その結果を踏まえて AP を作成した。

第2章

調査の背景

第2章 調査の背景

2.1 背景

第1章で述べたように、日本政府は2001年4月から2004年9月にかけて Adrar 州及び Tagant 州を対象として「オアシス地域開発計画調査」を実施した。同調査を通じて、調査対象のオアシス地域の地下水資源、乾燥地農業、社会インフラ（水の供給、教育施設、医療施設など）における基本情報を GIS データに取りまとめた。更に拠点オアシスにおいて2ヶ年にわたり実証調査を実施し、実証調査の教訓を踏まえて自然資源の有効活用に基づいた持続的な生活改善を目指したマスタープランを策定している。

このマスタープランの中で、オアシス地域開発に向けて、5つの優先プロジェクト、1)野菜栽培技術普及計画、2)保健衛生状況改善計画、3)小規模オアシス生活環境改善計画、4)地方上水施設の改善及び整備計画、5)基礎インフラストラクチャー整備計画、が提言されている。また、対象地域のオアシス6ヶ所で実施された実証調査（野菜、ナツメヤシの節水栽培、養鶏、保健衛生活動など）では、オアシス管理組合の女性グループを主な裨益対象者とし、同地域における女性を支援する基盤が整いつつあることを確認した。（「オアシス地域開発計画調査」最終報告書参照）

2.2 国家政策及び上位計画

2.2.1 貧困削減戦略（PRSP）

2001年1月に承認された貧困削減戦略（PRSP）は、モーリタニア国の主要な政策であり、主要方針は、1) 貧困緩和の基礎である経済成長の促進、経済競争力の向上、外的要因への依存度の減少、2)生産性の改善、3)人的資源の開発と基本インフラへのアクセスの改善、4)貧困対策に係る全ての当事者の参加に立脚した組織開発の促進、の4つを掲げている。

さらに、農村地域の貧困者を2015年までに半減させることを目標に掲げており、そのための具体的方策として、1)生産要因及び農業サービスへのアクセスの改善を介して、農産物の多様化、高品質化による農業振興、2)農村地域インフラの開発、3)組織的・制度的対策、4)自然資源の保護、の4つを掲げている。

また、主要な開発課題の一つとして、女性の社会・経済環境の改善をあげており、これまで女性を支援する活動として、1) 家庭及び子供に関する法整備、2) 女性自立センターにおける識字教育・職業訓練の実施、3) 女性向け小規模金融の拡大、4) 女性の組織化支援等、を通じた女性の地位向上など多岐に亘り実施している¹。

モーリタニア政府は、2005年から2006年にかけて貧困削減戦略の2001-2004年（フェーズ1）の評価を行い、優先活動の見直しを図った。2006年10月には貧困削減戦略2006-2010年（フェ

¹ PRSP プログラムレポート

ーズ2) のアクションプランを策定している。この見直しの中における大きな特徴は、農村部での貧困状況の推移分析を受けて、優先分野と優先地域の定義を見直している点である。すなわち、同プランでは、4つの優先分野（教育、保健、水、インフラ）と2つの優先地域（乾燥農村部と都市スラム街）を掲げている。

フェーズ1では、5つの優先分野（教育、保健、水、農村開発、都市部の開発）を設定していたが、優先活動が分野ごとに定められていたため活動の調整が不十分であったことを反省点として挙げ、フェーズ2では優先分野を教育、保健、水、インフラとし、優先地域を具体的に乾燥農村部と都市スラム街とした。

これらの見直しの背景は、貧困が総合的な要因から発現する現象であるにもかかわらず、これまでの開発支援がセクター単独のアプローチに取り組み、総合的に取り組めなかったことがまず指摘される。加えて、2000年から2004年に行われた生活条件についてのアンケート結果では、農村部の貧困率は2000年の66.2%から2004年の59.0%に減少している。この減少に大きく貢献したのはセネガル川地域であり（11ポイントの減少率）、一方、その他の乾燥地域では貧困率が余り減少していない（減少率2.5ポイント）。すなわち、広い農村部の格差を見落としていた点である。

2.2.2 女性地位向上のための国家戦略

1995年3月以来、モーリタニア政府は一貫して国家開発計画の中に女性の地位向上のための戦略をたて、女性の社会・経済・政治への参加を促進すべく努力している。但し、農村地域においては、社会インフラ(交通のアクセス、安全な水の供給、医療施設など)が十分に整備されておらず、女性に対する政府の取り組みが届き難い状況に置かれている。

モーリタニアにおいて社会経済的、法的な男女平等の権利が認められたのは、1991年の憲法改正である。この憲法改正により出生、民族、性別、社会状況による違いから差別されずに市民としての平等の権利を行使することが認められた。これに引き続き、1992年には、女性の地位向上及び家族の擁護に関する国家政策を担うことを目的に女性地位向上庁(現女性省)が設置された。

1995年には、女性の社会・経済状況の改善や性による不平等を軽減することを目的とする「女性地位向上のための国家戦略」が策定された。この国家戦略のもとで法律・政策・コミュニケーションなどの面における女性の状況は大きく進歩したが、まだ介入分野は非常に限られており、改善の余地は残った。

モーリタニア政府は、2001年に貧困削減戦略を掲げ、社会・経済開発における女性の役割及び女性が置かれている立場の脆弱性を認識したが、各セクター戦略に対してジェンダーの視点を十分に導けなかった。女性地位向上庁ではこうした背景に鑑み、新しく「女性地位向上のための国家戦略」(2005-2008年)を掲げ、政策面や貧困削減戦略においてジェンダー・イシューを取り込んでいくことを示した。特に意思決定プロセスにおける女性の参加が重要課題として掲げられた。同戦略では、1)女性の経済活動への参加促進、2)女性の社会サービスへのアクセス向上、3)女性の人権と参加、4)人々の行動変容を目的とした戦略開発、5)女性地位向上庁の制度強

化などが示された。こうした背景から改定された貧困削減戦略（PRSP 2006-2010）には、戦略の策定段階、実行段階において前回の貧困削減戦略で不足していたジェンダーの視点を取り込むことが示された。

貧困削減戦略 2006-2010（フェーズ 2）のアクションプランでは、「女性地位向上のための国家戦略」に示されている戦略目標と優先活動を取り込んでいる。特に、1)女性の生産性の強化、2)女性の意思決定プロセスへの参加、3)啓発普及(IEC)プログラム策定と実施を通じて態度の変容を促す戦略の開発、に重点を置くこととしている。しかし、同フェーズ 2 で予定された活動では真の意味でのジェンダーの横断的考慮を推進するには十分でない。これらを成し遂げるには、1)関係省庁においてジェンダーを制度化し、ジェンダー分析を系統化する、2)データの収集、3)これらのための特別予算の配分、が必要となっている。

2.2.3 農村地域開発政策

モーリタニア政府は、農村地域開発の戦略として「生産性の向上」と「生産物の多様化」をあげ、戦略の最終目標を「国内・国際市場での競争力の強化」に置いている。本政策はかんがいによる米作振興等を重点にしている。

オアシス地域の開発の方向性は、限られた地域資源を考慮した持続的開発を目標とする。国家経済に占める割合は少ないものの、オアシス文化は住民の定住を支え、自然環境をよみがえらせることで国家の食料安全に貢献する。国家政策に盛りこまれたオアシス地域における活動の戦略は以下を目標とする。これらは、すなわち、地域開発環境省が進めてきているオアシスプロジェクトの戦略が基本となっている。

- 社会インフラストラクチャー、生産地域のアクセスを改善(非隔絶化)する。
- ナツメヤシ栽培、野菜栽培の生産性を現場に適合した技術の普及により改善する。
- 地下水脈涵養をより良くし、節水技術を開発する。
- オアシスの堆砂問題と戦う。
- オアシス地域における共済ローンを発展させる。
- オアシスにおける観光資源を開発する。

2.3 関連省

本調査に関係する主要な省として、女性省、農牧省、保健省があげられる。

2.3.1 女性省（MCPFEF）

(1) 設立目的

女性庁は 2007 年の省庁再編で女性省へ格上げとされた。女性庁は 1992 年、女性の地位向上及び家族の擁護に関する国家政策を担っていくことを目的として設立された。また女性庁は、2001 年にモーリタニア国において男女平等の権利を認めた法律の制定を受け、この適用を通

して、女性の権利と義務の啓発及び子供の人権擁護の推進活動、ジェンダーや女性の地位向上に配慮するようなセクター政策や開発プログラム等の策定及びフォローアップ支援を目的とする。

(2) 実施体制

女性省は首相府の下に置かれ、大臣を筆頭に、大臣官房は、ミッション担当（2名）、技術顧問（3名）、内部監査官、IEC 担当室、特別秘書の6つから構成される。また中央行政は、大臣官房、次官、調査・協力・モニタリング局、女性活動局、児童局、家庭局、児童局、総務・財務局からなる。また同省は、地方事務所（各州に1箇所）、及び技術的監督下にある女性のための訓練センター、幼児のためのセンターを管理下に含む。地方事務所も含めた全職員数は約170名である。

(3) 財政

2007年度における女性省の予算は、約7億750万UM（約283万US\$:250UM/\$で計算）である。予算は事務局関連費とプロジェクト関連費に分かれている。2004年度の予算額は、2億4200万UM（約93万US\$）であった。上記の国家予算額とは別に、女性地位向上・児童の保護等のプログラム支援で、主なドナー機関（UNFPA、世銀、アフリカ開発銀行、UNDP、ILO、カタール政府）から約5,200万UM（約20万US\$）の協力を受けている。

(4) 調査・協力・モニタリング局の実施体制・活動状況

調査・協力・モニタリング局が本調査のカウンターパート機関である。同局は、3部（調査・統計部、協力部、モニタリング部）で構成されている。主な業務は、各局の活動計画の策定・調整、各局の戦略・政策策定・調整、モニタリング・評価、プロジェクト形成に係わる準備、他の関連省庁やドナー機関等との連携・調整、女性省の強化に係わる施策の実施・モニタリング等である。

(5) 地方事務所

省令によれば、地方事務所は州知事の直轄下にあり、次の業務担当（事務所長、協力、女性地位向上、家族、子供）が置かれている。職員数は州によって異なる。

Adrar州では、事務所長の他に4名の担当者がおり、その内の3名が正規職員である。このうち1名は同州の女性職業訓練センターの運営等を担当し、同訓練センター長も兼任している。また、1名が家族問題を、2名が子供の教育をそれぞれ担当している。

主な活動は保育園運営と啓蒙活動等である。保育園では、約80名の幼児（3歳から6歳）を預かっている。啓蒙活動は不定期に行われ、2004年度には、家族・女性の権利、HIVエイズ、リプロダクティブヘルス、識字教育に関わる活動が実施された。保健分野の啓蒙活動の場合、保健省州事務所と連携が図られ、講師は保健省州事務所が手配する。今後は従来の活動に加えて女性の長期的な教育への参加や、生活用水の利用に関する啓蒙活動を展開することを検討している。

予算は、2001年度から2004年度までの3年間、同額の20万UM（約800US\$）であった。

2007年は13の州事務所全体で1,924万UM(約7万6千US\$)、1事務所あたり148万UM(約590US\$)の予算が組まれている。内訳は、本庁からのミッション費用、事務所雑費や活動費である。予算額には人件費と光熱費は含まれておらず、別途、国家予算から支払われている。

2.3.2 農牧省 (MAE)

(1) 中央及び州事務所

農牧省(MAE)は、農業、牧畜に関する政策の策定及び実施を担う技術的な省庁である。2007年6月の省庁再編により地域開発省から農牧省になった。各州(wilaya)に、地域レベルでプログラムの実施を担う州事務所がある。MAEより任命される州事務所の局の責任者は州における各局の仕事を取りまとめている。

州知事(waly)の権限下及び国家政策・地域政策の枠組みの中で、州事務所は、州で実施される農業・畜産に関する活動の実施支援を行う。PDDO、PDRC、PDIAMのようなプロジェクトやプログラムは、省内にコーディネーションユニットを設け、実施されている。

農業部門担当、畜産部門担当、調査・研修・普及に係わる担当、農村開発担当等の州レベルの責任者は、省庁の直接的な代弁者(spokesperson)であり、彼らは技術支援し、州事務所の各部署で業務を実施することとなっている。しかしながら、同省の州レベルの活動状況は、オアシスプロジェクトに係わる活動以外は、人員不足や予算不足などから限定的である。

(2) 技術部局

上述した州事務所と関係のある中央レベルでの主な技術部局の役割を以下に示す。

1) 農業局(DA)

農業局は農産物及びアグロインダストリー分野における国家政策を実施するための調整及び監督を担うと共に、それらの政策の策定を行う。また、農業局は農薬及び農産物の品質管理も担っている。同局は生産、市場、価格、関連技術等の生産システム全般における諸活動をより活発にさせるための適正な対策をとる。

2) 畜産局(DE)

畜産局は家畜管理及び家畜生産の支援を担う。家畜生産に係わる技術的支援の提供、病害管理、家畜衛生管理と研修を通じた生産性の向上に関する支援を行っている。

3) 調査・研修・普及局(DRFV)

調査・研修・普及局は、農業や専門的な開発組織及び農村分野の組織に関する政策の策定及び実施を担う。州の代表を通し、農民及び農民組織への助言と技術支援を調整、管理する役割も担っている。また、調査・開発の内容及び手法を調整したり、技術的な支援を行ったり、関係者間での情報交換や経験の共有を円滑にするために、調査実施者・農民・行政のとりまとめも担当している。

4) 農村開発局(DAR)

農村開発局は自然資源(土、表流水、動植物)の持続的な利用及びその保護を担っている。自然資源の調査の実施、資源の利用に関する規則の確立、持続的利用を目指した開発政策の策定、かんがい開発政策の策定及び施策を行っている。

2.3.3 保健省 (MS)

(1) 保健行政

保健省は、モーリタニアの保健行政を司る省として、治療、予防、衛生、保健教育、栄養、検診、人材育成、研修、医療調査等を実施している。また、医薬品に関する制度、生産、処方、法を定め、国家既定価格の必須医薬品を全国に配備している。2007年6月の省庁再編では、前身の保健社会事業省が管轄していた社会保障分野が国家社会保障食料安全機構に移行したことによって、これらを主に担当していた社会活動アクセス局に代わり、「基礎保健サービス局」が新たに設置されている²。これは、広大な砂漠地域に点在する国民に対する医療サービスを拡充するために、コミュニティレベルでの保健医療活動を重視するためである。その戦略として、地域保健活動へのコミュニティの参加や地域レベルでの人材育成を盛り込んでいる。保健省はこれまでリプロダクティブヘルス政策(2002年～)の中で、約700名の助産師補助(AA)を育成したが、UNICEFやGTZが育成してきた村落保健普及員(ASC)については、保健制度には含めず管轄外としてきた。しかし、新しい地域保健政策では、これらのASCについてもコミュニティのニーズによっては介入していく予定である。

省内にはこの他、7つの局、「計画協力保健統計局」、「医学医療局」、「疾病対策局」、「医薬試験局」、「人材局」、「財政局」、「施設機材管理局」が設置されている。保健省は、1998-2002年の保健・社会事業基本計画、隔年計画(2004-2005年)による暫定的な事業の後、2006年からは保健分野投資計画(CDMT 2005-2007)に基づいて事業が実施されている。

(2) 保健医療制度

保健制度はピラミッド的に設置されており「国(州)立病院」、「保健医療センター(CS)」、「保健ポスト(PS)」の順に設置され、疾病の重篤度に応じて順次利用されている。医療従事者では、医師、看護師、准看護師、助産師、助産師補助が育成されている。人員不足は深刻で、人口約86,000人のTagant州では、医療従事者に対する人口の割合が10,783人/医師、3,595人/看護師である³。レベル別の予算は、高次サービスに重点が置かれ、一次、二次レベルの予算は比較的少ない⁴。

² Décret n°087-2007/P M fixant les attributions du ministre de la santé et l'organisation de l'administration centrale de son département : juin,2007

³ Présentation de la Wilaya du Tagant 2005: Dr. Hamahoullah Ould Cheikh, DRPSS

⁴ Annuaire des Statistique Sanitaire 2005 : Ministère de la Santé, avril 2007

表 2.3.1 2005 年度保健省医療制度別予算内訳

レベル	収支(単位1,000 UM)			実現率
	見積額	%	実現	
一次	2,867,491	29	1,917,095	67%
二次	884,883	9	750,102	85%
三次	3,240,511	33	1,931,969	60%
中央レベル	2,779,946	28	2,028,901	73%
合計	9,772,831		6,628,067	68%

出典：Annuaire des Statistique Sanitaire 2005 : Ministère de la Santé, avril 2007

(3) 栄養改善の取り組み

モーリタニアにおける栄養改善の取り組みは、保健省ならびに社会保障食料安全機構によって行われている。保健省は主に治療の視点に立って、各医療機関でのサーベイランスならびにリハビリテーションと、これらの付属施設である栄養リハビリセンター（CREN）を通して、深刻な栄養不良児に対処している。一方、食料危機時の軍隊による緊急支援部隊（Aide d'urgence、1970年）をその原型とする CPSSA（1982年より現在の形）は食料安全の視点に立ち、全国の食料危機に対処するために機能している。

モーリタニア政府は 2002～17 年にかけて、食料安全のための緊急支援をすることを決定し、特に 5 歳児未満の子供の栄養改善のための CAC（Centre d'Alimentation Communautaire）の開設と、食料補給だけでなく医療ケアが必要な深刻な栄養不良のケースに対応するための、CREN を建設している。この国家プログラムでは 632 の CAC ならびに 70 の CREN が建設されることにより、31,600 人の子供を救済することが可能となると予想されている。CPSSA の予算は、国家予算（140 億 UM/2003 年）に加え、フランス、イタリア、ヨーロッパ共同体、日本、国連食料計画、中国等による出資から成り立っている。CPSSA は年間 6 ヶ月間の収穫期前の栄養改善プログラムを実施している。

2.4 オアシス地域の概況

2.4.1 概況

歴史的に見て、オアシスは地方住民が定住していくために、常に社会、文化的に重要な役割を果たしてきた。モーリタニア全体では、オアシス地域に約 15,000 戸の小規模農家(平均 32 アール)が居住する。これらの農家は基本的にナツメヤシ栽培とかんがいを組み合わせた穀物、野菜、アルファルファ栽培、及び牧畜を柱としている。オアシス農業は、移牧を含めた生産システム、天水栽培、オアシス利用の栽培、定住牧畜(特に Adrar 州及び Tagant 州)を基礎とした伝統的システムと言える。加えて、オアシス地域では、アクセスの問題により生産物の出荷、販売が困難な状況から貧困度が高いことと、水資源の過剰使用による地下水位低下、飛砂・堆砂の問題などを抱えている。

2.4.2 農業

(1) 農業生産

モーリタニア国には、Adrar (アドラール)、Tagant (タガント)、Assaba (アッサバ)、Brakna (ブラクナ)、Dakhlet Nouadhibou (ダフレト・ヌアディブ)、Gorgol(ゴルゴル)、Guidimaka (ギディマカ)、Hodh Ech Chargui(ホッド・シャルギ)、Hodh El Gharbi(ホッド・ガルビ)、Inchiri (インシリ)、Tiris Zemmour (ティリス・ゼムール)、Trarza (トラルザ)の 12 州と首都の Nouakchott (ヌアクショット)がある。

この内、オアシスを有する主要 5 州 (Adrar、Tagant、Assaba、Hodh El Gharbi、Hodh Ech Chargui) は 5,000ha のヤシ林と 30,000ha の洪水エリア (洪水跡地栽培地)、60,000ha の天水栽培エリアを持っている。農業生産はデーツ(ナツメヤシの実)が 16,000 トン、天水栽培の穀物が 27,000 トン、洪水跡地栽培の穀物が 20,000 トン、野菜栽培が 4,000 から 5,000 トン、小麦大麦が 4,000 トンであり、農業セクターの重要な地域となっている。オアシス地域で見られる生産システムは、それぞれ独自の自然条件、社会経済条件を背景に異なった様相を示す。

Adrar 州では、住民がヤシ林下での栽培経験があり、その栽培は州都や首都 Nouakchott の市場を対象とした野菜生産、ローカル市場や自家消費用の穀物生産やアルファルファ等多様である。同州は他州と比べ生産システムが最も集約されたオアシス地域となっている。しかし、地下水脈のポテンシャルが低いためヤシ林における最適なかんがいを行うことができなくなっている。通常のばら撒き型天水栽培は大体 4 年に一回、降雨量が多い時のみ栽培ができる程度である。ラクダの放牧は今でも広く行われており、住民にとって主な肉類供給源となっている。ヤギの放牧も自家消費のために重要な活動である。

Tagant 州は、特に北部では Adrar 州と同様の農業を行っているものの、生産性は低い。ヤシ林の下での栽培は主として穀物であり、野菜栽培はローカル市場または自家消費用である。この地方をも襲った早魃により洪水栽培は定期的に行うことが難しくなった。

Assaba 州は天水栽培が可能な気候条件下にあり、天水栽培が耕地面積の 6 割以上を占める。ヤシ栽培は補足的に行われているのみである。ヤシ林の下で行う栽培は数年前から幾つかのオアシスで行われるようになってきたが、まだ少数派であり生産量は少ない。

二つの Hodh 地方(Hodh El Gharbi 州、Hodh Ech Chargui 州)のヤシ栽培は、ヤシの数も限られ補足的に行われているに過ぎない。この 2 州における農業生産では天水栽培と洪水栽培が比較的大きく行われている。

以上、オアシス関連 5 州の農業を概観した。その中で、本調査の対象 2 州の農業は、デーツ依存が高い地域であるが、次のような問題を持っている。毎年 1 万から 2 万トンにのぼる国内デーツ生産の半分以上が Adrar 及び Tagant 州(約 13,000 トン：2000 年)で生産されている。しかし、ヤシ一本あたりの生産量は低く、周辺諸国では一本あたり 150kg から 200kg に対しモーリタニアでは 11kg から 15kg である。生産性の低さは、ヤシのバイユード病、栽培管理技術などが原因となっている。野菜や穀物生産は、自然条件や流通網の制約などから一部を除き、自給向けの栽培に留まっている。

(2) 農業支援

1) 流通

農業生産、特にデーツ、野菜、いくつかの穀物生産はオアシスにおける主要な経済活動である。現在のところ生産(生産量と出荷量の推移)や生産物の価格についての統計的データは存在しない。開発支援を行う場合、それぞれがアンケート調査を行って得られた数字か、他の活動者(ドナーなど)から得られたデータを組み合わせて用いている。ただし、大部分のオアシスにおいてはデーツに加えて、主に自家消費とローカル市場向けの野菜栽培、天水・洪水跡地利用による食料生産(穀物)が行われている。都市部で消費される野菜生産を専門に行っているオアシスもある。一般に、Adrar 州のオアシスは Nouakchott に農産物を供給しており、その他の州のオアシスでは州都に農産物を供給している。

オアシス地域において重要な農産物であるデーツの販売では特に問題は生じない。つまり、購入者がデーツを求めオアシスまでやってくるのである。デーツは一般にゲットナーと呼ばれる収穫期に販売される。販売は通常収穫されたその場で行われる。

デーツの価格はその生産場所により大きく異なる。Adrar 州で収穫されたデーツの平均価格は他の州の同じ種のデーツを大きく上回る。一般的に Adrar 州の気候、水質、土壌条件がヤシ栽培により適しているとされており、デーツの品質が良く販売価格も高い。

オアシス地域の野菜栽培は、AGPO 結成後急速に拡大した。特にその中でも Atar、Tidjikja、Kifa、Ayoun、Nema といった州都や中心都市に近いオアシスで特に速かった。野菜は周辺都市に出荷するのみならず国内の大都市にも出荷される。季節により(収穫期と農閑期)野菜栽培の生産物の価格は著しく変動する(2 倍以上になる)。その結果、農民は市場を意識し、輸送が簡単か長期保存が可能な栽培種を選んでいる。しかし、農産物の流通に関しては、公的な支援はほとんど行われていない。唯一、SONIMEX(輸出入公社)が Adrar においてニンジンを購入していたことが挙げられるのみである。しかし、この活動は 4 年目を迎えた 2003 年をもって終了された。結果として、オアシスレベルで多量の農産物(ニンジン)を生産するようになったが、輸送手段がなくかつ購入者がいないため、販売をより一層困難にただけであった。

2) 農業普及

普及に関しては、世銀が資金を出した農業部門プロジェクト(PSA)が以下を主目標とした地域開発環境省の政策の実施に貢献した。

- i) 生産者の要望とニーズを反映させる方針と、効率的な管理を基礎とする農業普及部門の活動を漸次調和させていく。
- ii) 政府のセクター政策に従って、現場に応じた研究と普及の関係を強化していく。

PSA の中で実施されたオアシスを対象とする農業支援計画は、そのテーマと手段がオアシス地域に適合した普及活動ではなかった。これに対し、オアシスプロジェクトといったその他のプログラムが、オアシス地域固有の農業普及活動支援を試みた。

オアシスプロジェクトなどによって、オアシス住民は以下の2つのアプローチからなる普及プログラムによるノウハウ取得の支援を受けた。

- i) プロジェクト、関係州組織やNGOによる Training & Visit アプローチ
- ii) “農民普及”と呼ばれるアプローチ

後者の農民普及と呼ばれるアプローチは、マグレブ農民がオアシスに一定期間住み着いて普及活動を行うものである。このアプローチは、生活を共にすることによってマグレブ農民からモーリタニア農民へのノウハウの移転を容易にすると共に、生活スタイルが似ている住民同士で、乾燥して過酷な環境に適した生産方法を移転するシステムを構築することを目的としたものである。このアプローチは、実際に現場で体験をした者が似たような環境で教えるより良い方法はないという考えによるものである。これまでの活動では、女性の生活改善（パン製造など）に効果が見られる。しかしながら、農業技術の移転や普及活動に係わる活動は十分に行われてこなかった。

2.4.3 社会状況の変化

近年のオアシス地域の社会状況として、不安定な降雨量のため農耕牧畜を放棄し、都市部へ出稼ぎに行くことにより農村地域から都市部へ人口が流出し、これが同地域の貧困化を招いていることが挙げられる。都市へ流出する者の多くを男性が占めており、農村地域においては、女性世帯主が増加し、家庭を支えるのみならず、地域開発の担い手として、女性の果たす役割がより一層重要となってきた。